

授業計画表

動物飼育		科	MCL盛岡ペットワールド専門学校		
科目名		動物飼養管理総論Ⅰ (健康管理学Ⅰ)		教員名	高坂 恵梨香
科目時間数:		40	時間	授業の種類: <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別:		<u>必修</u> ・選択	配当学年:	1	開講時期: <u>前期</u> ・ <u>後期</u> ・集中
【授業の目的・ねらい】 犬のステージに合わせた健康管理の仕方について説明し実行できる 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 3. 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる 4. 社会で活躍と働くという心構えができています 【授業全体の内容の概要】 犬の健康管理の仕方について学ぶ 【授業における達成課題】 健康管理の仕方について説明し実行できる 筆記試験で正答が60%以上					
	使用教材		出版社		
学生用	コンパニオンアニマルの健康管理学		インターズー		
【教員担当の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無 【内 容】 動物病院で動物看護師として勤務経験がある 【評価方法とその内容】 筆記試験で正答率60%以上、授業出席率80% 【必要な予習等の内容】 次回授業に向けて教科書を一読することを指示して実行する					

科目名 動物飼養管理総論Ⅰ（健康管理学）		科目時間総数 40 時間	教員名 高坂 恵梨香
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	犬猫の日常の健康管理	バイタルサイン（T・P・R・CRT）の測り方、基準値を覚えて言えるようになる	
2 回	犬猫の日常の健康管理	排尿、排便の正常・異常を理解する	
3 回	犬猫の日常の健康管理	ブラッシング、シャンプーについての基本を理解する。	
4 回	犬猫の日常の健康管理	耳・目の手入れ、爪切り、肛門腺絞りについての基本を理解する。	
5 回	犬猫の日常の健康管理	歯の構造・分類・歯式・萌出時期を理解する。	
6 回	犬猫の日常の健康管理	幼犬や猫で注意する口腔内疾患を理解する。	
7 回	犬猫の日常の健康管理	正常咬合、不正咬合について理解する。	
8 回	犬猫の日常の健康管理	代表的な口腔疾患である齲歯、歯周病について原因と予防法を理解する	
9 回	犬猫の日常の健康管理	犬猫の歯磨きの仕方を理解し、飼い主さんへアドバイスできるようになる	
10 回	犬猫の日常の健康管理	歯石除去のおおまかな流れ、方法を理解する	
11 回	犬猫の日常の健康管理 まとめ	日常の健康管理についての確認テストにより理解を深める	
12 回	狂犬病について	狂犬病予防法について理解する	
13 回	狂犬病について	狂犬病の原因となる病原体、感染経路、症状について理解する	
14 回	狂犬病について	狂犬病の予防のポイントを理解する	
15 回	ワクチンについて	ワクチンの定義・意義、種類（生・不活化）を理解する	
16 回	ワクチンについて	ワクチン接種時と接種後の注意を理解する	
17 回	ワクチンについて	ワクチン接種プログラムについて理解する	
18 回	ワクチンについて	犬猫のワクチンで予防できる病気を理解する	
19 回	去勢・避妊手術	避妊・去勢手術の方法、適期、手術を行うメリット・デメリットを理解	
20 回	犬糸状虫症	寄生動物、寄生部位、ライフサイクルについて理解する	
21 回	犬糸状虫症	症状、診断、治療、予防について理解する	
22 回	去勢、避妊等のまとめ	去勢・避妊手術、犬糸状虫症についての確認テストにより理解を深める	
23 回	外部寄生虫	ノミ・マダニ・犬毛包虫のライフサイクル、症状、予防法について理解	
24 回	外部寄生虫	ノミ・マダニ・犬毛包虫のライフサイクル、症状、予防法について理解	
25 回	外部寄生虫	ヒゼンダニ、ミミヒゼンダニ、ツメダニ、ハジラミのライフサイクル、症状、予防法について理解する	
26 回	外部寄生虫まとめ	外部寄生虫についての確認テストで理解を深める	
27 回	腸管内寄生虫	回虫、鉤虫、鞭虫のライフサイクル、症状、予防法について理解する	
28 回	腸管内寄生虫	幼虫移行症の症状、予防法について理解する	
29 回	腸管内寄生虫	犬条虫、猫条虫、マンソン裂頭条虫のライフサイクル、症状、予防法について理解する	
30 回	腸管内寄生虫	コクシジウム、腸トリコモナス、ジアルジアの症状、感染経路、予防法について理解する	

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
31 回	腸管内寄生虫まとめ	腸管内寄生虫についての確認テストにより理解を深める
32 回	栄養学の基本的知識	五大栄養素、動物のエネルギー要求量について理解する
33 回	栄養学の基本的知識	安静時エネルギー要求量、1日のエネルギー要求量の求め方を理解する
34 回	感染症とその予防	感染症とは何か、また感染の形態を理解する
35 回	感染症とその予防	感染経路、感染症の予防法について理解する
36 回	滅菌法と消毒法	滅菌と消毒の定義、方法を理解する
37 回	滅菌法と消毒法	各消毒薬の特徴を理解する
38 回	滅菌法と消毒法	書毒薬の希釈方法を理解する
39 回	感染症等のまとめ	感染症・予防、滅菌・消毒法についての確認テストにより理解を深める
40 回	健康管理学総まとめ	確認テストにより理解を深める

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 動物飼養管理総論Ⅰ (飼育学Ⅰ)		教員名 市村 香織	
科目時間数: 30 時間		授業の種類: 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別: 必修・選択	配当学年: 1	開講時期: 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 犬と人間の違いを知り、成犬を心身共に健康的に飼育管理する知識を身に付ける。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 犬の成長過程、犬のニーズを満たす飼育管理法、飼い主の責任と義務について、座学形式で授業を受け、知識を身に付ける。 【授業における達成課題】 筆記試験において80%以上の正答する。 成犬の飼育管理に関すること「犬の成長」「食事」「運動」「環境」「社会的関わり」「性的欲求」の質問に答えることができる。 一般飼い主が知るべき法律やマナーを知り、指導ができる。			
	使用教材	出版社	
学生用	プリント等		
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 ドッグトレーナーとしての勤務経験がある。			
【評価方法とその内容】 筆記試験において正答が80%以上、授業出席率80%以上。			
【必要な予習等の内容】 配布資料（プリント等）の復習をして、次回の授業に参加するように指示をして実行する。			

科目名 動物飼養管理総論Ⅰ（飼育学Ⅰ）		科目時間総数 30 時間	教員名 市村 香織
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	学校の飼育当番について	学校の飼育当番の手順を説明できる。	
2 回	学校の飼育当番について	学校の飼育当番の手順を説明できる。	
3 回	人と犬の違い 目・耳	犬の認識しづらい色、動体視力、興奮しやすい音について説明できる	
4 回	人と犬の違い 食性と味覚	犬の食性や味の好みを理解し、答えることができる	
5 回	人と犬の違い 思考	犬の思考について理解し、説明できる	
6 回	人と犬の違い 言葉	犬のコミュニケーションツールを理解し、説明できる	
7 回	犬の成長	新生児～幼年期までに、犬にどんな成長が見られるか説明できる。犬が親兄弟から学ぶ重要な項目を3つ説明できる。	
8 回	犬の成長	少年期～成年期までに、犬にどんな成長が見られるか説明できる。社会化とは何かを説明できる。	
9 回	犬の成長	高齢期について、犬にどんな変化が見られるか説明できる。	
10 回	犬具 首輪	首輪の種類を理解し、説明できる	
11 回	犬具 リード	リードの種類を理解し、説明できる	
12 回	犬具 コング	コングの使い方を理解し、正しい使い方ができる	
13 回	5つの自由 犬のニーズ	5つの自由とは何か説明できる。 犬のニーズとは何か答えることができる。	
14 回	飼い主の義務とマナー	飼い主の義務、マナーを答えることができる。	
15 回	飼い主の義務とマナー	飼い主として必要なことは何か説明できる。	
16 回	犬の飼育 環境	成犬を適切に飼育する環境を理解し、室内飼育のメリットを説明できる。	
17 回	犬の飼育 環境	成犬を適切に飼育する環境を理解し、湿度・室温・寝床を作るポイントを説明できる	
18 回	犬の飼育 環境	成犬を適切に飼育する環境を理解し、飼育環境を整えることができる。	
19 回	犬の飼育 食事	犬の食事のタイプを3つ理解し、特徴を説明できる。	
20 回	犬の飼育 食事	犬の食事を楽しくする工夫を理解し、実践できる。 食事をたべなかった時の対処について説明できる。	
21 回	犬の飼育 散歩	散歩の効果を説明できる。散歩をする際の注意点を3つ以上答えることができる。	
22 回	犬の飼育 運動	オモチャの選び方、管理の仕方を説明し、実践できる	
23 回	犬の飼育 運動	ドッグランの使用の注意点について説明できる。	
24 回	犬の飼育 運動	安全にドッグランを使うポイントを説明できる。	
25 回	犬の飼育 災害の対策	災害の対策について、犬の避難グッズを答えることができる。	
26 回	犬の飼育 災害の対策	災害の対策について、飼い主がすべきことを答えることができる。	
27 回	犬の飼育 性的欲求	犬の避妊手術の効果を理解できる。メリット、デメリットを答えることができる。	
28 回	犬の飼育 性的欲求	犬の去勢手術の効果を理解できる。メリット、デメリットを答えることができる。	
29 回	学校動物の飼育	犬の飼育方法を理解し、学校犬の飼育を適切にできる。	
30 回	学校動物の飼育	犬の飼育方法を理解し、学校犬の飼育を適切にできる。	

授業計画表

動物飼育科		MCL盛岡ペットワールド専門学校	
科目名 動物飼養管理総論Ⅰ (愛玩動物飼養管理 学)		教員名 平元 尚人	
科目時間数：30時間		授業の種類：講義・演習・実習	
必修・選択 の別：必修・選択		担当学年：1	開講時期：前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 動物全体への理解を深め、またそれらに伴う、法律や責任、社会的役割などを学び、動物を取り扱う職業につくための基礎を身に着けて、愛玩動物飼養管理士試験の合格を目指す。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 1. 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 2. 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 人と動物の関係学や、動物関係法令を課題報告問題、過去問題集を事例にしながら一問の選択肢一つ一つを解説していく。全111問中選択肢が5つあるので約555問について、考察や実際にあった事例を踏まえ、教科書により進めていく。 【授業における達成課題】 課題報告問題及び過去問題集の正答率が80%以上 愛玩動物飼養管理士試験 合格			
	使用教材	出版社	
学生用	愛玩動物飼養管理士2級、1巻2巻	公益社団法人日本愛玩動物協会	
【教員担当の実務経験の有無】有・無 【内 容】 ペットショップ販売員（動物取扱責任者）の経験がある。愛玩動物飼養管理士1級資格所持。 【評価方法とその内容】 課題報告問題における正答率80%以上 【必要な予習等の内容】 授業で解説を行う問題の前後5問のページ番号および解説の書き込みを指示し実行する			

科目名 動物飼養管理総論Ⅰ（愛玩動物飼養管理学）		科目時間総数 30 時間	教員名 平元 尚人
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	オリエンテーション	愛玩動物飼養管理士2級の資格合格を目指し、最終的に何が身についていればよいかを具体的にイメージする	
2 回	愛玩動物飼養管理士の社会活動について	愛玩動物飼養管理士の活動とそれらの歴史、運用機関を理解し、課題報告問題を解くことができる	
3 回	動物愛護論	動物愛護の歴史、動物観、思想を理解し課題報告問題を解くことができる	
4 回	人と動物の関係学	人と動物の関係、思想、動物の効用を理解し課題報告問題を解くことができる	
5 回	動物関係法令概説	法令の施行基準、法律の定められた生き物、制定経緯を理解し課題報告問題を解くことができる	
6 回	動物関係法令概説	法令の施行基準、法律の定められた生き物、制定経緯を理解し課題報告問題を解くことができる	
7 回	動物関係法令概説	法律の目的、基本原則、普及啓発を理解し課題報告問題を解くことができる	
8 回	動物関係法令概説	法律の目的、基本原則、普及啓発を理解し課題報告問題を解くことができる	
9 回	動物関係法令概説	保管に関する基準、家庭動物に関する基準、展示動物に関する基準を理解し課題報告問題を解くことができる	
10 回	動物関係法令概説	保管に関する基準、家庭動物に関する基準、展示動物に関する基準を理解し課題報告問題を解くことができる	
11 回	動物関係法令概説	第一種、第二種動物取扱業の基準、周辺環境の保全、罰則を理解し課題報告問題を解くことができる	
12 回	動物関係法令概説	第一種、第二種動物取扱業の基準、周辺環境の保全、罰則を理解し課題報告問題を解くことができる	
13 回	動物関係法令概説	第一種、第二種動物取扱業の基準、周辺環境の保全、罰則を理解し課題報告問題を解くことができる	
14 回	課題報告問題	課題報告問題をすべて解き、マークシート提出をできるようにもれなく記入をする。	
15 回	動物の体の仕組みと働き	細胞小器官、筋肉、消化酵素、各種臓器を理解し課題報告問題を解くことができる	
16 回	動物の体の仕組みと働き	細胞小器官、筋肉、消化酵素、各種臓器を理解し課題報告問題を解くことができる	
17 回	動物の飼養管理	犬の習性、病因論、健康と疾病の関連性を理解し課題報告問題を解くことができる	
18 回	動物の飼養管理	犬の習性、病因論、健康と疾病の関連性を理解し課題報告問題を解くことができる	
19 回	動物の飼養管理	消毒薬、環境衛生、飼養衛星、管理衛星、公衆衛生を理解し課題報告問題を解くことができる	
20 回	動物の飼養管理	消毒薬、環境衛生、飼養衛星、管理衛星、公衆衛生を理解し課題報告問題を解くことができる	
21 回	動物の飼養管理	事故への対応、災害への備え、血統書、犬の分類と歴史を理解し課題報告問題を解くことができる	
22 回	動物の飼養管理	事故への対応、災害への備え、血統書、犬の分類と歴史を理解し課題報告問題を解くことができる	
23 回	動物の飼養管理	犬の特徴、犬との生活、犬の発情を理解し課題報告問題を解くことができる	
24 回	動物の飼養管理	犬の特徴、犬との生活、犬の発情を理解し課題報告問題を解くことができる	
25 回	動物の飼養管理	動物の習性、特徴を理解し課題報告問題を解くことができる	
26 回	動物の飼養管理	動物の習性、特徴を理解し課題報告問題を解くことができる	
27 回	動物の飼養管理	動物の習性、特徴を理解し課題報告問題を解くことができる	
28 回	動物のしつけ	動物の学習、条件付け、刷り込みを理解し課題報告問題を解くことができる	
29 回	動物のしつけ	動物の社会化、しつけ、猫の適切な飼養を理解し課題報告問題を解くことができる	
30 回	総復習	愛玩動物飼養管理士における重要点を理解し課題報告問題及び、過去問題集を解くことができる	

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 ペットビジネス教養Ⅰ (飼育実習)		教員名 市村 香織	
科目時間数： 50 時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : 必修・選択		配当学年： 1	開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 学校動物の飼育の中から、飼い主の気持ちを知るとともに、適切な動物の飼育の仕方や適切な扱い方を身に付ける。 他者とコミュニケーションを取りながら、作業を進めるために必要な能力を身に付ける。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 学校犬、猫、小動物の飼育法について、上級学生から学びながら、同学年の学生同士で学校動物の飼育管理を行う。 【授業における達成課題】 学校にいる動物について基本的な飼育ができる。			
	使用教材	出版社	
学生用	プリント等		
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】			
【評価方法とその内容】			
授業出席率80%以上。			
【必要な予習等の内容】			
配布資料（プリント等）の復習をして、次回の授業に参加するように指示をして実行する。			

科目名 ペットビジネス教養 I (飼育実習)		科目時間総数 50 時間	教員名 市村 香織
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	服装	動物を飼育する際の服装について、理解する。	
2 回	掃除	床の拭き方、ぞうきんの絞り方、ほうきの扱いかたを学ぶ。適切な消毒方法を理解する。	
3 回	イヌの飼育	イヌとの接し方を理解し、イヌとあいさつし、警戒されない方法を理解する。	
4 回	ネコの飼育	ネコとの接し方を理解し、ネコとあいさつし、警戒されない方法を理解しする。	
5 回	小動物の飼育	小動物との接し方を理解し、小動物とあいさつし、警戒されない方法を理解する。	
6 回	イヌの飼育	犬の飼育に必要となる道具を理解し、つかいこなせるようになる。	
7 回	イヌの飼育	犬の飼育に必要となる道具を理解し、つかいこなせるようになる。	
8 回	ネコの飼育	ネコの飼育に必要となる道具を理解し、つかいこなせるようになる。	
9 回	ネコの飼育	ネコの飼育に必要となる道具を理解し、つかいこなせるようになる。	
10 回	小動物の飼育	小動物の飼育に必要となる道具を理解し、つかいこなせるようになる。	
11 回	小動物の飼育	小動物の飼育に必要となる道具を理解し、つかいこなせるようになる。	
12 回	イヌの飼育	イヌの体の構造を理解し、実際の犬を観察し。体がどのように動くかを知る。	
13 回	ネコの飼育	ネコの体の構造を理解し、実際の犬を観察し。体がどのように動くかを知る。	
14 回	小動物の飼育	小動物の体の構造を理解し、実際の犬を観察し。体がどのように動くかを知る。	
15 回	イヌの飼育	イヌの体の構造を理解し、抱っこをする、保定する方法を身に付ける。	
16 回	イヌの飼育	イヌの体の構造を理解し、抱っこをする、保定する方法を身に付ける。	
17 回	ネコの飼育	ネコの体の構造を理解し、抱っこをする、保定する方法を身に付ける。	
18 回	ネコの飼育	ネコの体の構造を理解し、抱っこをする、保定する方法を身に付ける。	
19 回	小動物の飼育	小動物の体の構造を理解し、抱っこをする、保定する方法を身に付ける。	
20 回	小動物の飼育	小動物の体の構造を理解し、抱っこをする、保定する方法を身に付ける。	
21 回	イヌの飼育	イヌの食事について理解を深める。食事の与え方を学び、実際の犬の飼育に使用する	
22 回	イヌの飼育	イヌの運動について理解を深める。運動の仕方を学ぶ。	
23 回	イヌの飼育	イヌの運動について理解を深める。運動の仕方を学び、実際の犬の飼育に使用する。	
24 回	イヌの飼育	イヌの運動について理解を深める。オモチャの扱い方を学ぶ。	
25 回	イヌの飼育	イヌの運動について理解を深める。オモチャの扱い方を学び、実際の犬の飼育に使用する。	
26 回	イヌの飼育	イヌの休息について理解を深める。イヌがいる環境設定について学ぶ。	
27 回	イヌの飼育	イヌの休息について理解を深める。イヌがいる環境設定について学び、実際の犬の飼育に使用する。	
28 回	イヌの飼育	イヌとの関わり方について理解を深める。良い関係を築くために、どのような方法があるかを知る。	
29 回	イヌの飼育	イヌとの関わり方について理解を深める。良い関係を築くために、どのような方法があるかを知り、実際の犬の飼育に使用する。	
30 回	イヌの飼育	イヌの健康管理について理解を深める。異常と正常の違いを知る。	

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
31 回	イヌの飼育	イヌの健康管理について理解を深める。異常と正常の違いを知り、実際の犬の飼育に使用する。
32 回	イヌの飼育	イヌの健康管理について理解を深める。健康維持をするために、どのようなボディケアが必要かを理解する。
33 回	イヌの飼育	イヌの健康管理について理解を深める。健康維持をするために、どのようなボディケアが必要かを理解し、実際の犬の飼育に使用する。
34 回	ネコの飼育	ネコの食事について理解を深める。食事の与え方を学び、実際の猫の飼育に使用する。
35 回	ネコの飼育	ネコの運動について理解を深める。運動の仕方を学ぶ。
36 回	ネコの飼育	ネコの運動について理解を深める。運動の仕方を学び、実際の猫の飼育に使用する。
37 回	ネコの飼育	ネコの運動について理解を深める。オモチャの扱い方を学ぶ。
38 回	ネコの飼育	ネコの運動について理解を深める。オモチャの扱い方を学び、実際の猫の飼育に使用する。
39 回	ネコの飼育	ネコの休息について理解を深める。猫がいる環境設定について学ぶ。
40 回	ネコの飼育	ネコの休息について理解を深める。ネコがいる環境設定について学び、実際の猫の飼育に使用する。
41 回	ネコの飼育	ネコとの関わり方について理解を深める。良い関係を築くために、どのような方法があるかを知る。
42 回	ネコの飼育	ネコとの関わり方について理解を深める。良い関係を築くために、どのような方法があるかを知り、実際の猫の飼育に使用する。
43 回	ネコの飼育	ネコの健康管理について理解を深める。異常と正常の違いを知る。
44 回	ネコの飼育	ネコの健康管理について理解を深める。異常と正常の違いを知り、実際の猫の飼育に使用する。
45 回	ネコの飼育	ネコの健康管理について理解を深める。健康維持をするために、どのようなボディケアが必要かを理解する。
46 回	ネコの飼育	ネコの健康管理について理解を深める。健康維持をするために、どのようなボディケアが必要かを理解し、実際の猫の飼育に使用する。
47 回	小動物の飼育	小動物の食事について理解を深める。食事の与え方を学び、実際の飼育に使用する。
48 回	小動物の飼育	小動物の運動について理解を深める。運動の仕方を学ぶ。
49 回	小動物の飼育	小動物の運動について理解を深める。運動の仕方を学び、実際の飼育に使用する。
50 回	指導について	後輩に飼育の仕方を指導できるように、指導のポイントを理解する。

授業計画表

動物飼育科		MCL盛岡ペットワールド専門学校	
科目名 動物看護学Ⅰ (解剖生理学)		教員名 笹 美冬	
科目時間数： 20時間		授業の種類： 講義・演習・実習	
必修・選択の別： 必修・選択		担当学年 1	開講時期： 前期・後期・集中
〔授業の目的・ねらい〕 犬の体の構造、機能を理解し生体を扱う上での作業、管理を適切に行えるようになるのがねらい 〔動物飼育科ディプロマポリシーとの関連〕 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 3. 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる 4. 社会で活躍と働くという心構えができている 〔授業全体の内容の概要〕 耳について、耳の全体像の理解 犬の体の仕組みと機能について（骨格、耳、眼、口腔、皮膚、消化器、生殖器、循環器など） 〔授業における達成課題〕 筆記試験において正答が80%以上			
	使用教材	出版社	
学生用	プリント等		
【教員担当の実務経験の有無】 有・無 【内容】 動物病院にて動物看護師として勤務経験がある 【評価とその内容】 筆記試験において80%以上、授業出席率80%以上 【必要な予習などの内容】 配布（プリント等）の復習をして、次回の授業に参加することを指示し実行する			

科目名 動物看護学Ⅰ（解剖生理学）		科目時間総数 20 時間	教員名 笹 美冬
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	解剖学を学ぶ目的	学校内・IS先・就職先で犬を扱う際に動物を扱ううえで無理なくコントロールすることができるよう骨格を理解する。また各種臓器や関わる疾患を理解することで、動物の正常と異常をいち早く発見することができるよう解剖学の重要性を理解する。	
2 回	解剖学を学ぶ目的		
3 回	骨について	犬の各骨の名称と役割を理解する。	
4 回	骨について	犬の各骨の名称と役割を理解する。	
5 回	骨の疾患	膝蓋骨脱臼・股関節形成不全・股関節脱臼・椎間板ヘルニア・環軸椎亜脱臼の疾患を理解する。 各消火器系の名称を知り、役割、異常と性状を理解する。	
6 回	消化器の役割		
7 回	消化器の異常について	軟便・下痢・嘔吐・吐出について理解する。	
8 回	皮膚と皮膚の疾患について	皮膚の機能と役割を知る。皮膚炎の進行・皮膚疾患について学び、扱いが難しいことを理解する。 皮膚の機能と役割を知る。皮膚炎の進行・皮膚疾患について学び、扱いが難しいことを理解する。	
9 回	皮膚と皮膚の疾患について		
10 回	解剖生理学復習	確認のテストの実施により理解を深める	
11 回	眼について	犬の眼の各部の名称と役割を理解する。	
12 回	眼疾患	角膜炎・角膜潰瘍・白内障・緑内障について理解する。	
13 回	眼疾患	角膜炎・角膜潰瘍・白内障・緑内障について理解する。	
14 回	耳について	犬の耳の各部名称と役割を理解する。	
15 回	耳疾患	外耳炎・中耳炎・耳血腫について理解する。	
16 回	口腔について	犬の歯の名称（歯数）、口腔内の各部名称（粘膜）と役割を理解する。 歯周病・乳歯遺残・口腔内腫瘍・不正咬合・歯瘻・口鼻瘻管について理解する。	
17 回	口腔内疾患		
18 回	心臓について	心臓の解剖を理解する。	
19 回	心疾患	心臓の解剖を理解し、犬に多い心疾患を理解する。	
20 回	解剖生理学復習	確認のテストの実施により理解を深める	

授業計画表

動物飼育科

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名	グルーミング学Ⅰ (グルーミング実習Ⅰ)		教員名	佐藤 丈嗣	
科目時間数：	100	時間	授業の種類：	講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別：	必修・選択	担当学年：	1	開講時期：	前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 モデル犬での実習を通して、犬の扱い方、作業の仕方を学ぶ。ケガ事故の無いように安全に行うことと、生体実習なので出来るだけ負担をかけないようにスムーズに行えるようになるのがねらい。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 ・モデル犬実習 ・手順と道具の使い方 【授業における達成課題】 筆記試験の正答率80%以上 複数人で1頭の犬のお手入れを適切に行うことができる					
	使用教材		出版社		
学生用	プリント等				
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内容】 ペットショップにてトリマーとして勤務経験がある					
【評価とその内容】 筆記試験での正答率80%以上、実技試験の合格、授業出席率80%以上					
【必要な予習などの内容】 実習する犬について、カルテ等を確認して事前に実施内容を把握する					

科目名 グルーミング学Ⅰ (グルーミング実習Ⅰ)		科目時間総数 100 時間	教員名 佐藤 丈嗣
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	オリエンテーション	科目の概要 動議づけ	
2 回	グルーミング理論の 必要性	グルーミングとは何かを説明できる。	
3 回	犬体名称 骨格名称	グルーミングで使う犬体名称を答えることが出来る。 犬の骨格や関節を理解できている。	
4 回	グルーミング手順	グルーミングの全体の流れを理解している。	
5 回	グルーミング手順 道具の種類と使い方	犬体チェックの仕方と、必要な道具、チェックのポイントを説明できる。	
6 回	グルーミング手順 道具の種類と使い方	爪切り、クリッピングの仕方と使用する道具と使い方を説明できる。	
7 回	グルーミング手順 道具の種類と使い方	爪切り、クリッピングの仕方と使用する道具と使い方を説明できる。	
8 回	グルーミング手順 道具の種類と使い方	ブラッシング、コーミングの仕方と使用する道具と使い方を説明できる。	
9 回	グルーミング手順 道具の種類と使い方	ブラッシング、コーミングの仕方と使用する道具と使い方を説明できる。	
10 回	グルーミング手順 道具の種類と使い方	耳そうじ、眼軟膏、肛門腺絞りの仕方と使用する道具と使い方を説明できる。	
11 回	グルーミング手順 道具の種類と使い方	耳そうじ、眼軟膏、肛門腺絞りの仕方と使用する道具と使い方を説明できる。	
12 回	シャンプーリンスの種 類・仕方	各シャンプーの特徴、用法、用量を説明できる	
13 回	グルーミング手順 道具の種類と使い方	シャンプーリンスの仕方と使用する道具と使い方を説明できる。	
14 回	グルーミング手順 道具の種類と使い方	ドライの作業の仕方と使用する道具と使い方を説明できる。	
15 回	グルーミング手順 道具の種類と使い方	ハサミの持ち方、ひげきりと足回りのカットの仕方と使用する道具と 使い方を説明できる。	
16 回	グルーミング手順 道具の種類と使い方	ハサミの持ち方、ひげきりと足回りのカットの仕方と使用する道具と 使い方を説明できる。	
17 回	リボンの作り方 ・つけ方	小型犬用のリボンを1組（2個）実際に作れる	
18 回	リボンの作り方 ・つけ方	小型犬用のリボンを1組（2個）実際に作れる	
19 回	リボンの作り方 ・つけ方	マネキン犬に作ったリボンをつけることが出来る	
20 回	ブラシを使ってブラッ シング	ブラシの持ち方とブラシの動かし方を実際にできる	
21 回	ブラシを使ってブラッ シング	ブラシの持ち方とブラシの動かし方を実際にできる	
22 回	受付接客	事前準備の仕方と、受付の仕方を説明できる	
23 回	お返し接客	お返しの電話のかけ方とお返しの仕方を説明できる。	
24 回	カルテの書き方 領収書の書き方	カルテ書き、領収書書きを出来る。	
25 回	グルーミング手順の復 習	一通りの手順を説明できる。道具を正しい持ち方で持って動かせる。	
26 回	マネキンのブラッシン グ	マネキン犬のブラッシングを正しく行える。	
27 回	模擬手配表の読み取りとシ ミュレーションの仕方	手配表を読み取り、シミュレーションを行うためのカルテの準備がで きる。	
28 回	模擬受付	受付を、模擬で出来る。	
29 回	模擬お迎え電話	お返しの電話を、模擬で出来る。	
30 回	模擬お返し	犬のお返しを、模擬で出来る。	

[illegible]

[illegible]

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
91 回	グルーミング実習	モデル犬でのグルーミングの一連の流れを行える	飼い主さんの対応あり
92 回	グルーミング実習	モデル犬でのグルーミングの一連の流れを行える	飼い主さんの対応あり
93 回	グルーミング実習	モデル犬でのグルーミングの一連の流れを行える	飼い主さんの対応あり
94 回	グルーミング実習	モデル犬でのグルーミングの一連の流れを行える	飼い主さんの対応あり
95 回	グルーミング実習	モデル犬でのグルーミングの一連の流れを行える	飼い主さんの対応あり
96 回	グルーミング実習	モデル犬でのグルーミングの一連の流れを行える	飼い主さんの対応あり
97 回	グルーミング実習	モデル犬でのグルーミングの一連の流れを行える	飼い主さんの対応あり
98 回	グルーミング実習	モデル犬でのグルーミングの一連の流れを行える	飼い主さんの対応あり
99 回	グルーミング実習	モデル犬でのグルーミングの一連の流れを行える	飼い主さんの対応あり
100 回	グルーミング実習	モデル犬でのグルーミングの一連の流れを行える	飼い主さんの対応あり

授業計画表

動物飼育科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 グルーミング学 (犬種総論)		教員名 小松 里菜	
科目時間数： 30 時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修・選択	配当学年： 1		開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 JKCにおける人気犬種を理解し、市場の傾向や犬種ごとの特性を理解し、犬の飼育方法・遺伝性疾患の有無、被毛の特徴など学科ごとの特性と学習につなげる 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 JKCにおける第一グループから第十グループまですべての犬種について触れ、その中で特に登録数の多い犬種について、体長、性質、グルーミングの有無等を解説していく 【授業における達成課題】 口頭により、人気犬種TOP10について、体長・性質・飼育方法等について解説できる 筆記試験で正答80％以上。			
	使用教材	出版社	
学生用	最新犬種図鑑	株式会社インターズー	
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 ペットショップでトリマーとして勤務経験がある			
【評価方法とその内容】 筆記試験での正答率が90％以上 授業出席率80％以上			
【必要な予習等の内容】 次回の犬種グループにおいてページ数、体長等をプリントに書き留めておくことを指示し実行する			

科目名 グルーミング学（犬種総論Ⅰ）		科目時間総数 30	時間	教員名 小松 里菜
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標		
1 回	オリエンテーション	犬種を学ぶ意味とケネルクラブの意味を学び、血統書の意義を確認できる		
2 回	血統書について	血統書の読み方や名義変更について理解し説明することができる		
3 回	血統書について	血統書の読み方や名義変更について理解し説明することができる		
4 回	人気犬種について	JKC登録頭数の多い犬種を理解し、登録数の多い理由について答えることができる		
5 回	第一グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
6 回	第一グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
7 回	第一グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
8 回	第二グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
9 回	第二グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
10 回	第二グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
11 回	第三グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
12 回	第三グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
13 回	第三グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
14 回	第四グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
15 回	第五グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
16 回	第五グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
17 回	第六グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
18 回	第六グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
19 回	第七グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
20 回	第七グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
21 回	第八グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
22 回	第八グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
23 回	第九グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
24 回	第九グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
25 回	第九グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
26 回	第十グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
27 回	第十グループについて	グループの犬種について学び、その中の登録頭数の多い犬種について答えることができる		
28 回	復習	J K C 1 ～ 1 0 グループについて復習をする		
29 回	犬の毛色について	犬の毛色について、基本的な色を学ぶ		
30 回	犬の毛色について	犬の毛色について、犬種特有の毛色を学ぶ		

授業計画表

動物飼育		科	MCL盛岡ペットワールド専門学校		
科目名		グルーミング学 (猫種総論)		教員名	高坂 恵梨香
科目時間数：		20	時間	授業の種類： <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別：		<u>必修</u> ・選択	配当学年	1	開講時期： 前期・ <u>後期</u> ・集中
〔授業の目的・ねらい〕 ペットショップで販売されている猫の種類のお手入れについてを理解するのがねらい 〔動物飼育科ディプロマポリシーとの関連〕 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 3. 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる 4. 社会で活躍と働くという心構えができている 〔授業全体の内容の概要〕 猫の種類とその特徴 猫のお手入れの仕方 〔授業における達成課題〕 筆記試験において正答が80%以上					
	使用教材		出版社		
学生用	猫の教科書		緑書房		
【教員担当の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無 【内容】 動物病院にて動物看護師として勤務経験がある 【評価とその内容】 筆記試験において正答率80%以上 授業出席率80%以上 【必要な予習などの内容】 次回に向けて、教科書に目を通し予習することを指示し実行する					

科目名 グルーミング学（猫種総論）		科目時間総数 20 時間	教員名 高坂 恵梨香
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	オリエンテーション	授業の目的、授業の目標について説明する。	
2 回	メイン・クーン・キャット	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
3 回	アメリカン・ショートヘア	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
4 回	タビーパターンについて	タビーパターンを理解し、タビーの判別ができるようになる。	
5 回	スコティッシュ・フォールド	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
6 回	ノルウェージャン・フォレスト・キャット	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
7 回	ラグドール	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
8 回	アメリカン・カール	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
9 回	アビシニアン	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
10 回	ロシアン・ブルー	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
11 回	猫種総論まとめ	筆記試験により理解を深める。	
12 回	ベンガル	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
13 回	エキゾチック	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
14 回	マンクス	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
15 回	猫の感覚器・五感・飼育に必要なもの	猫の感覚器や五感、飼育に関わるものが犬とどのように違うのかを理解する。	
16 回	猫の感覚器・五感・飼育に必要なもの	猫の感覚器や五感、飼育に関わるものが犬とどのように違うのかを理解する。	
17 回	猫の感覚器・五感・飼育に必要なもの	猫の感覚器や五感、飼育に関わるものが犬とどのように違うのかを理解する。	
18 回	シンガプーラ	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
19 回	ブリティッシュ・ショートヘア	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
20 回	猫種総論まとめ	筆記試験により理解を深める。	

授業計画表

動物飼育		科	MCL盛岡ペットワールド専門学校	
科目名		教員名		
しつけトレーニング学Ⅰ (しつけトレーニング実習Ⅰ)		伊勢 仁英		
科目時間数：		130	時間	授業の種類：
必修・選択の別：		必修・選択	配当学年：	1
		開講時期：		
		前期・後期・集中		
【授業の目的・ねらい】 イヌを安全に管理する技術と知識を身につける。犬の学習理論を理解し、普段の生活に活かす。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 1. 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 2. 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 3. 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる 4. 社会で活躍と働くという心構えができています 【授業全体の内容の概要】 イヌのコントロール、観察およびボディランゲージを読みとり、現状を把握する。犬がトラブルに巻き込まれないための管理。犬の学習理論を理解し、普段の生活に取り入れる。 【授業における達成課題】 筆記試験で正答率60点%以上。				
	使用教材		出版社	
学生用	プリント等			
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 ドッグトレーナーとして勤務経験がある 【評価方法とその内容】 筆記試験で正答率60点%以上、授業出席率80%以上。 【必要な予習等の内容】 次回の授業に向けて、プリント等を活用して復習をことを指示し実行する。				

科目名 しつけトレーニング学Ⅰ（しつけトレーニング実習Ⅰ）		科目時間総数 130	時間	教員名 伊勢 仁英
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標		
1回	行動管理	犬の目線になり、犬と友達になる。犬と仲良くなれる方法を実践できる。		
2回	行動管理	犬の観察の仕方 観察のポイントを説明できる		
3回	行動管理	犬への挨拶の仕方 近づく時の注意点		
4回	行動管理	犬の視覚について 犬の視野、視力、色の認識について説明できる。		
5回	行動管理	犬の聴覚について 犬が聞き取りやすい音、高い音と低い音の効果を説明できる。		
6回	行動管理	リードワーク 3種類のリードの持ち方ができる		
7回	行動管理	カラーについて 3種類のカラーを説明できる		
8回	行動管理	ハーネスについて 2種類のハーネスを説明できる		
9回	行動管理	犬の嗅覚について 犬の嗅覚は、人の何倍良いか、探知しやすいにおいを説明できる。		
10回	行動管理	報酬について 犬の報酬とは何か理解する		
11回	行動管理	フードの安全な与え方 適切なフードのサイズを理解する。		
12回	行動管理	クレートケージの組み立て方 3種のクレートを組み立てることができる		
13回	行動管理	グルーミングテーブルの組み立て グルーミング台を適切に組み立て、片付けることができる。		
14回	行動管理	カラーのつけ外し 安全にカラーの着脱ができる		
15回	行動管理	犬が入るイベントを運営する注意点を3つ説明できる。		
16回	行動管理	抱っこの仕方 横抱っこをマネキン犬を使って実践できる		
17回	行動管理	抱っこの仕方 前抱っこをマネキン犬を使って実践できる		
18回	行動管理	台の上での犬の扱い 身体的誘導法を使ったオスワリの方法を実践できる		
19回	行動管理	台の上での犬の扱い 犬の前肢を見る保定ができる		
20回	行動管理	誘導法 犬をコントロールする誘導法を理解する		
21回	行動管理	誘導法 犬をコントロールする誘導法を実践できる		
22回	行動管理	犬が入るイベントを運営する注意点を考えて実践できる		
23回	行動管理	犬を安全にコントロールの仕方を理解する		
24回	行動管理	5つの自由を説明できる 犬の触り方のポイントを説明できる		
25回	行動管理	犬の触り方の復習		
26回	行動管理	クレートから犬を安全に出入りさせる方法を実践できる		
27回	行動管理	首まわりをつかむ練習 触ることができる		
28回	行動形成	誘導法の仕方 誘導法を実践できる		
29回	行動形成	誘導法を使って オスワリ フセ タテ を引き出す方法を理解する		
30回	行動形成	誘導法を使って オスワリ フセ タテ を引き出す方法を実践できる		

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
31 回	行動形成	誘導法からオスワリの合図のつけ方を理解する
32 回	行動形成	オスワリのハンドシグナルの教え方を理解する
33 回	行動形成	フセのハンドシグナルの教え方を理解する
34 回	行動形成	合図のつけ方の復習
35 回	行動形成	ハンドシグナルの復習
36 回	行動形成	コングを使い、犬に利用できるようになる
37 回	行動形成	ハンドシグナルでのオスワリとフセの復習
38 回	行動形成	新しい合図のつけ方（声符）を実践する
39 回	行動形成	声の合図のつけ方の復習
40 回	行動形成	行動を教えているときの行動修正の仕方を理解する
41 回	行動形成	イルカゲームのルールを理解する
42 回	行動形成	イルカゲームを実践する ほめるタイミングを理解する
43 回	行動形成	イルカゲームを実践する 行動を形成する方法を実践する
44 回	行動形成	クリッカートレーニングの使い方を実践する
45 回	行動形成	クリッカートレーニングの使い方を実践する
46 回	行動形成	盲導犬ゲームのルールを理解する 盲導犬やユーザーの気持ちを体験する
47 回	行動形成	盲導犬ゲームを実践する 盲導犬やユーザーの気持ちを体験する
48 回	行動形成	クリッカートレーニング バスタオルターゲット 行動を分解することが理解できる
49 回	行動形成	クリッカートレーニング シェーピングを使って、犬の行動を引き出せる
50 回	行動形成	リードの持ち方の復習 リードを適切に扱うことができる
51 回	行動形成	リードの扱い方 安全に素早くリードをコントロールできる
52 回	行動形成	リードの扱い方 安全に素早くリードをコントロールできる
53 回	行動形成	クレートの出入りの復習 安全に犬をクレートから出入りさせることができる
54 回	行動形成	誘導法でのオイデの教え方を理解する
55 回	行動形成	誘導の手についてくる練習 犬を誘導についてこさせることができる
56 回	行動形成	呼び戻しの復習 の教え方を理解する
57 回	行動形成	リードの持ち方 抱っこの仕方の復習 犬の抱っこを適切に実践できる
58 回	行動形成	ハズバンダリートレーニングとは何か理解する
59 回	行動形成	ハズバンダリートレーニングを実践する
60 回	行動形成	ハズバンダリートレーニングの復習 ハズバンダリートレーニングとは何か説明できる

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
61 回	行動形成	ハズバンダリートレーニングの復習 ハズバンダリートレーニングを実践できる
62 回	行動形成	呼び戻しの練習 犬を呼び戻すことができる
63 回	行動形成	呼び戻しからカラーをつかむ リリースコマンドとは何か理解する
64 回	行動形成	オスワリ マテ の練習 リリースコマンドを適切に伝えることができる
65 回	行動形成	オスワリ マテ の時間を伸ばす方法 時間を伸ばす方法を実践できる
66 回	行動形成	オスワリ マテ の距離を伸ばす練習 距離を伸ばす方法を理解できる
67 回	行動形成	呼び戻しの復習 適切に犬を呼び戻すことができる
68 回	行動形成	呼び戻しの復習 適切に犬を呼び戻すことができる
69 回	行動形成	オスワリ マテの復習 適切にオスワリマテができる
70 回	行動形成	オスワリ マテの復習 適切にオスワリマテができる
71 回	行動形成	素材の違った足場に慣らす練習 足場に慣らす方法を理解する
72 回	行動形成	4つのDとは？ 行動を安定させる4つのDを理解する
73 回	行動形成	4つのDとは？ 行動を安定させる4つのDを実践できる
74 回	行動形成	4つのDの復習 4つのDとは何か説明ができる
75 回	行動形成	4つのDの復習 4つのDをトレーニングで実践できる
76 回	行動形成	古典的条件付けとは何か理解する
77 回	行動形成	古典的条件付けで学習していることを2つの例が出せる
78 回	行動形成	プレマックの原理とは何か理解する
79 回	行動形成	プレマックの原理を説明できる
80 回	行動形成	扉の出入り プレマックの原理を利用して実践できる
81 回	行動形成	古典的条件付けの復習 古典的条件付けを説明できる
82 回	行動形成	古典的条件付けの復習 古典的条件付けの例を1つ説明できる
83 回	行動形成	プレマックの原理の復習 プレマックの原理を説明できる
84 回	行動形成	プレマックの原理の復習 プレマックの原理を使って、犬の行動を引き出すことができる
85 回	行動形成	適切なフードの与え方を実践できる。 犬にオフの教え方（フードから離れる）を実践できる
86 回	行動形成	クリッカートレーニングについて スモールステップの仕方を理解できる
87 回	行動形成	クリッカートレーニングについて アテンション オスワリ マテ の教え方 を実践できる
88 回	行動形成	キャッチングとはどんな方法か理解する
89 回	行動形成	キャッチングを使って、フセ、マテを教えることができる
90 回	行動形成	学習のABC（三項随伴性）を理解できる

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
91 回	行動形成	スモールステップが出来るようになる 犬の行動から結果（学習していること）を読み取ることを理解する。
92 回	行動形成	スモールステップが出来るようになる 犬の行動から結果（学習していること）を読み取ることを実践できる
93 回	行動形成	スモールステップが出来るようになる 犬の行動から結果（学習していること）を読み取ることを実践できる
94 回	行動形成	キャッチングの復習 キャッチングの方法を説明できる
95 回	行動形成	キャッチングの復習 キャッチングを使い、行動を形成できる
96 回	行動形成	シェーピングの復習 シェーピングの方法を説明できる
97 回	行動形成	シェーピングの復習 シェーピングを使い、行動を形成できる
98 回	行動形成	適切な散歩の仕方を理解する
99 回	行動形成	適切なお散歩の仕方を実践できる
100 回	行動形成	適切な散歩の仕方を実践できる
101 回	行動形成	犬が参加するイベントを考えることができる
102 回	行動形成	犬への配慮する方法を理解できる
103 回	行動形成	クリッカーを使って オスワリ マテ を引き出すことができる
104 回	行動形成	オペラント行動、行動随伴性、弱化、強化、強化子、弱化子を説明できる
105 回	行動形成	お散歩の復習 安全に散歩をする方法を説明できる
106 回	行動形成	お散歩の復習 安全に散歩をする方法を説明できる
107 回	行動形成	オペラント行動、行動随伴性、弱化、強化、強化子、弱化子の復習
108 回	行動形成	オペラント行動、行動随伴性、弱化、強化、強化子、弱化子の復習
109 回	行動形成	クリッカーを使って、オスワリ マテを引き出すことができる
110 回	行動形成	クリッカーを使って、オスワリ、マテを引き出すことができる
111 回	行動形成	イベントの振り返り 反省をする
112 回	行動形成	次のイベントへ向けての反省をまとめる
113 回	行動形成	ターゲットトレーニング 条件付けのしかたを理解する
114 回	行動形成	ターゲットトレーニング 条件付けのしかたを実践する
115 回	行動形成	環境エンリッチメントとは何か説明できる
116 回	行動形成	環境エンリッチメントの復習 環境エンリッチメントを説明できる
117 回	行動形成	環境エンリッチメントの復習 周囲にいる動物の環境を見直すことができる
118 回	行動形成	クリッカーを使って、ハンドターゲットの教え方を理解する
119 回	行動形成	クリッカーを使って、ハンドターゲットの教え方を実践する
120 回	行動形成	ハンドターゲットを使って、犬を遠隔操作する方法を理解する

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
121 回	行動形成	ハンドターゲットを使って、犬を遠隔操作する方法を実践する
122 回	行動形成	クリッカーを使って コーンをターゲットを教える方法を理解する
123 回	行動形成	クリッカーを使って コーンをターゲットを教える方法を実践する
124 回	行動形成	アテンションをクリッカーで強化する方法を理解する
125 回	行動形成	アテンションをクリッカーで強化する方法を実践できる
126 回	行動形成	自発的なアテンションを強化する方法を理解する
127 回	行動形成	自発的なアテンションを強化する方法を実践できる
128 回	行動形成	適切に誘導法を使用することができる
129 回	行動形成	適切にグルーミング台の上で犬を保定できる
130 回	行動形成	適切にグルーミング台の上で犬を保定できる

授業計画表

動物飼育 科		MCL盛岡ペットワールド専門学校	
科目名 動物管理実践学 (ペットショップ実践学 I)		教員名 平元 尚人	
科目時間数 : 36 時間		授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : 必修・選択	配当学年 : 1年	開講時期 : 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 ペットショップ店員における、ビジネスマナーや法令、流通について学び、働くことへの基本的な理解を深める。 シリアスボードゲームを通じて、人と動物のつながりを説明できるようになる。 実習も行い、情報の発信ができる人材を目標とする 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 動物を販売する際の書類や、決済方法、電話応対、接客マナー、仕事の流れ等、一連のペットショップで体験する仕事や、トラブル・クレームへの対処方法を学ぶ 【授業における達成課題】 口頭におけるトラブル・クレームへの対処ができるか 飼育動物の魅力を伝えることができるか 物事を論理的に考え、科学的かつ客観的に伝えることができるか			
	使用教材	出版社	
学生用			
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 ペットショップで店長として勤務経験がある			
【評価方法とその内容】 アニマルアドバイザーライセンス試験による実技評価、卒業研究発表			
【必要な予習等の内容】 ビジネスマナー文書の読み込み及び書き留め			

科目名		科目時間総数	教員名
PS実務 I		36 時間	平元 尚人
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	オリエンテーション	授業の目的を理解し、最終的に何が身についていけばよいかを具体的にイメージする	
2 回	ペットショップとは	ペットショップのしくみについて学び、理解する。	
3 回	ペットショップとは	ペットショップの流通やテナントのしくみについて学び、理解する。	
4 回	ペットショップとは	ペットショップの売上や仕入れ、利益について学び理解をする。	
5 回	ペットショップとは	ペットショップの売上や仕入れ、利益について学び理解をする。	
6 回	PSの業務内容について理解する	ペットショップ店員の仕事内容を理解し、具体的に説明できる	
7 回	PSの業務内容について理解する	ペットショップ店員の仕事内容を理解し、具体的に説明できる	
8 回	PS店員に必要な知識を理解する	ペットショップ店員の仕事内容を理解し、今後必要な知識を書き出すことができる	
9 回	PS店員に必要な知識を理解する	ペットショップ店員の仕事内容を理解し、今後必要な知識を書き出すことができる	
10 回	コミュニケーションの大切さを理解する	あいさつや言葉遣いの重要性を理解し、良好なコミュニケーションのためにとるべき行動を説明することができる（店員同士）	
11 回	コミュニケーションの大切さを理解する	あいさつや言葉遣いの重要性を理解し、良好なコミュニケーションのためにとるべき行動を説明することができる（お客様）	
12 回	コミュニケーションの大切さを理解する	あいさつや言葉遣いの重要性を理解し、良好なコミュニケーションのためにとるべき行動を説明することができる（お客様）	
13 回	電話応対について	電話応対の際に行う確認事項を書き出すことができる	
14 回	電話応対について	電話応対の際に行う確認事項を実際にお客様から聞き出すことができる	
15 回	電話応対について	電話応対の際に行う確認事項を実際にお客様から聞き出すことができる	
16 回	動物販売時説明書について	動物販売時説明書の確認事項を書き出すことができる	
17 回	動物販売時説明書について	動物販売時説明書の確認事項を説明することができる	
18 回	動物販売時説明書について	動物販売時説明書の確認事項を説明することができる	
19 回	領収書について	領収書を発行することができる	
20 回	領収書について	領収書の書き方と意味について説明することができる	
21 回	シリアスボードゲーム	シリアスボードゲームを使用し、人と動物のつながりについて説明できる。	
22 回	シリアスボードゲーム	シリアスボードゲームを使用し、人と動物のつながりについて説明できる。	
23 回	シリアスボードゲーム	シリアスボードゲームを使用し、人と動物のつながりについて説明できる。	
24 回	シリアスボードゲーム	シリアスボードゲームを使用し、人と動物のつながりについて説明できる。	
25 回	シリアスボードゲーム	シリアスボードゲームを使用し、人と動物のつながりについて説明できる。	
26 回	シリアスボードゲーム	シリアスボードゲームを使用し、人と動物のつながりについて説明できる。	
27 回	シリアスボードゲーム	シリアスボードゲームを使用し、人と動物のつながりについて説明できる。	
28 回	PSでのトラブル・クレームについて	PS内でのトラブル・クレームについて学び、問題を起こさないためにはどのようにすればよいのか答えることができる	
29 回	PSでのトラブル・クレームについて	PS内でのトラブル・クレームについて学び、問題を起こさないためにはどのようにすればよいのか答えることができる	
30 回	アニマルカフェでの生体の取り扱いについて	アニマルカフェ内での生体の飼育管理について学び、問題を起こさないためにはどのようにすればよいのか答えることができる	

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
31 回	アニマルカフェでのトラブル・クレームについて	アニマルカフェ内でのトラブル・クレームについて学び、問題を起こさないためにはどのようにすればよいのか答えることができる
32 回	学校動物を紹介する	学校動物を新入生に魅力的に伝える方法を考え、実施できる。
33 回	学校動物を紹介する	学校動物を新入生に魅力的に伝える方法を考え、実施できる。
34 回	学校動物を紹介する	学校動物を新入生に魅力的に伝える方法を考え、実施できる。
35 回	学校動物を紹介する	学校動物を新入生に魅力的に伝える方法を考え、実施できる。
36 回	学校動物を紹介する	学校動物を新入生に魅力的に伝える方法を考え、実施できる。

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 動物管理実践学 (適正飼養学Ⅰ)		教員名 小松 里菜	
科目時間数：30 時間		授業の種類：講義・演習・実習	
必修・選択 の別：	必修・選択	配当学年：1	開講時期：前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 犬・猫だけではなく、近年の動物の多様化に合わせ、エキゾチックアニマルの生態・飼育方法などを学び、動物を取り扱う職業につくための基礎を身に付けていく。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 各種生体の寿命・体長・飼育方法・フード・用品・疾患などについて学び、それらの情報を発信できる人材になれるよう、説明の仕方、接客等においても板書、教科書、資料等を用い進めていく 【授業における達成課題】 口頭における各種生体の質問に対し答えることができる 筆記試験における正答率が60%以上			
	使用教材	出版社	
学生用	ペットの飼養管理 やさしいエキゾ学	公益社団法人 日本愛玩動物協会	
【教員担当の実務経験の有無】有・無 【内 容】 ペットショップでトリマーとして勤務経験がある			
【評価方法とその内容】 筆記試験において正答率60%以上、授業出席率80%以上			
【必要な予習等の内容】 教科書を活用して、次回の学習範囲を指定し、フード・用品・病名等のノートへの書き取りを指示して実行する			

科目名 動物管理実践学（適正飼養学Ⅰ）		科目時間総数 30	時間	教員名 小松 里菜
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標		
1 回	オリエンテーション	授業の目的を理解し、最終的に何が身についていけばよいかを具体的にイメージする		
2 回	哺乳類とは	哺乳類の分類とほかの動物との違いを学び、理解する。		
3 回	輸入動物に関わる問題	ワシントン条約や家畜伝染病予防法、特定外来生物法について学び、動物の輸入に関わる問題と現状について理解する。		
4 回	ハムスターの基本的な飼い方について	ハムスターの飼育用品 飼育方法について説明できる		
5 回	ハムスターの生態と飼育方法について	寿命・体長・カラー・品種、ゴールデン・キンクマ・ジャンガリアン・ロボロフスキーの飼育の違いについて説明できる		
6 回	ハムスターの繁殖について	ハムスターの雌雄判別方法と判別の重要性について説明できる		
7 回	ハムスターの繁殖について	ハムスターの妊娠期間、産子数、遺伝性疾患について説明できる		
8 回	ウサギの生態と飼育方法について	ウサギの生態 寿命について説明できる		
9 回	ウサギの生態と飼育方法について	ウサギの生態 雌雄判別方法について説明できる		
10 回	ウサギの生態と飼育方法について	ウサギの飼育用品 飼育方法について説明できる		
11 回	ウサギの生態と飼育方法について	ウサギのエサ、牧草の種類と特徴について説明できる		
12 回	哺乳類学Ⅰまとめ	筆記テストにより理解を深める		
13	フェレットの生態と飼育方法について	フェレットの生態 寿命について説明できる		
14 回	フェレットの生態と飼育方法について	フェレットの飼育用品 飼育方法について説明できる		
15 回	フェレットの生態と飼育方法について	フェレットのエサについて説明できる		
16 回	フェレットの生態と飼育方法について	子フェレットと成フェレットの飼育の違い、適正温度について説明できる		
17 回	フェレットの生態と飼育方法について	フェレットのなりやすい病気、ワクチンについて説明できる		
18 回	フェレットの生態と飼育方法について	フェレットの噛み癖と矯正方法について説明できる		
19 回	モルモットの生態と飼育方法について	モルモットとビタミンC、エサの関連性について説明できる		
20 回	モルモットの生態と飼育方法について	モルモットとエサ、歯の関連性について説明できる		
21 回	モルモットの生態と飼育方法について	モルモットの飼育関連用品について説明できる		
22 回	モルモットの生態と飼育方法について	モルモットのなりやすい病気と適正飼養温度について説明できる		
23 回	その他哺乳類の生態と飼育方法について	その他の哺乳類の生態 飼育方法について説明できる		
24 回	鳥の生態と飼育方法について	鳥類の生態 雌雄判別方法について説明できる		
25 回	鳥の生態と飼育方法について	鳥類の飼育用品 飼育方法について説明できる		
26 回	鳥の生態と飼育方法について	鳥類の種類と特徴について説明できる		
27 回	鳥の生態と飼育方法について	鳥類の飼育用品 飼育方法について説明できる		
28 回	鳥の生態と飼育方法について	鳥類の種類と特徴について説明できる		
29 回	適正飼養学Ⅰまとめ	筆記テストにより理解を深める		
30 回	適正飼養学Ⅰまとめ	筆記テストにより理解を深める		

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 動物管理実践学 (アクアリウム実習学 I)		教員名 平元 尚人	
科目時間数： 68 時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別： 必修・選択	配当学年： 1	開講時期： 前期 ・ 後期 ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 基本的な観賞魚の飼育について学び、魚種の特徴や食性、必要な飼育器具等について、実際に管理することができ、お客様に適切に説明できるようになる。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 熱帯魚、海水魚、金魚、メダカ、川魚及び水生生物について、座学を通して正しい知識を身につけ、実習を通して実際の水槽の飼育管理方法を実践し、将来お客様に対して適切な対応をできるようにする。 【授業における達成課題】 筆記試験の正答率 60%以上。			
	使用教材	出版社	
学生用	観賞魚飼育管理士教本	日本観賞魚振興事業協同組合	
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 ペットショップで動物取扱責任者、アクア売り場担当者としての勤務経験がある。ProjectWILDエデュケーター資格所持。 【評価方法とその内容】 筆記試験での正答が 60%以上、授業出席率 80%以上 【必要な予習等の内容】 次回の授業内容について、教科書等を活用して予習をすること指示して実行する。			

科目名 アクアリウム実習学 I		科目時間総数 68 時間	教員名 平元 尚人
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	オリエンテーション	授業の目的を理解し、最終的に何が身についていけばよいかを具体的にイメージする	
2 回	体験授業 魚を作ろう	体験授業（ProjectWILD）でオリジナルの魚をつくり、魚類に興味を持つとともに環境に対する適応を学び、理解する。	
3 回	水替え方法・海水の作り方	水替えの意味と詳しい行い方 温度合わせ PHショックについて理解する。	
4 回	生物濾過、化学濾過	生物濾過と化学濾過について学び、理解する。	
5 回	バクテリアの働き	バクテリアの働きについて理解をし、水替え等を実践する。	
6 回	ろ過装置①	ろ過装置について種類や構造について学び、理解をする。	
7 回	ろ過装置②	ろ過装置について種類や構造について学び、理解した内容を実践する。	
8 回	ろ過装置③	ろ過装置について種類や構造について学び、理解した内容を実践する。	
9 回	今までの振り返り	豆テストを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。	
10 回	ヒーターとSH規格	ヒーターやサーモスタッドの扱い方と機能を学び、SH規格を理解する。	
11 回	外来種問題を知ろう	水生生物の外来種問題について学び、理解する。	
12 回	外来種問題を知ろう	水生生物の外来種問題について学び、問題を意識をしてメンテナンスを実践する。	
13 回	水生生物河川調査	北上川の水生生物の河川調査を岩手県環境学習センターと協力して行い、盛岡の河川環境について体験をし、河川生物と環境問題を理解する。	
14 回	水生生物河川調査	北上川の水生生物の河川調査を岩手県環境学習センターと協力して行い、盛岡の河川環境について体験をし、河川生物と環境問題を理解する。	
15 回	水生生物河川調査	北上川の水生生物の河川調査を岩手県環境学習センターと協力して行い、盛岡の河川環境について体験をし、河川生物と環境問題を理解する。	
16 回	水生生物河川調査	北上川の水生生物の河川調査を岩手県環境学習センターと協力して行い、盛岡の河川環境について体験をし、河川生物と環境問題を理解する。	
17 回	水生生物河川調査	北上川の水生生物の河川調査を岩手県環境学習センターと協力して行い、盛岡の河川環境について体験をし、河川生物と環境問題を理解する。	
18 回	水生生物河川調査	北上川の水生生物の河川調査を岩手県環境学習センターと協力して行い、盛岡の河川環境について体験をし、河川生物と環境問題を理解する。	
19 回	水生生物河川調査	北上川の水生生物の河川調査を岩手県環境学習センターと協力して行い、盛岡の河川環境について体験をし、河川生物と環境問題を理解する。	
20 回	水生生物河川調査	北上川の水生生物の河川調査を岩手県環境学習センターと協力して行い、盛岡の河川環境について体験をし、河川生物と環境問題を理解する。	
21 回	底砂の種類と特性	水槽用の底砂の種類と特徴について学び、理解する。	
22 回	底砂の種類と特性	水槽用の底砂の種類と特徴について学び、メンテナンスを実践する。	
23 回	照明について	照明やコケの発生について学び、理解をする。	
24 回	照明について	照明やコケの発生について学び、水草水槽のメンテナンスを実践する。	
25 回	水草水槽の作り方について	水草水槽の作り方について学び、理解する。	
26 回	水草水槽の作り方について	水草水槽の作り方について学び、メンテナンスを実践する。	
27 回	小型水槽の設置	小型水槽の設置の仕方について学び、理解する。	
28 回	小型水槽の設置	小型水槽の設置の仕方について学んだことをもとに、実際に小型水槽を設置する。	
29 回	今までの振り返り	豆テストを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。	

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
30 回	熱帯魚の種類	熱帯魚の種類の概要について学び、理解をする。
31 回	熱帯魚の種類	熱帯魚の種類の概要について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
32 回	カラシンの仲間①	熱帯魚の代表的なカラシンについて学び、理解する。
33 回	カラシンの仲間①	熱帯魚の代表的なカラシンについて学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
34 回	カラシンの仲間②	熱帯魚のその他のカラシンについて学び、理解する。
35 回	カラシンの仲間②	熱帯魚のその他のカラシンについて学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
36 回	コイ、ローチの仲間	熱帯魚のコイ、ローチについて学び、理解する。
37 回	コイ、ローチの仲間	熱帯魚のコイ、ローチについて学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
38 回	メダカの仲間	熱帯魚のメダカの仲間について学び、理解する。
39 回	メダカの仲間	熱帯魚のメダカの仲間について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
40 回	シクリッド、アナバスの仲間	熱帯魚のシクリッド、アナバスの仲間について学び、理解する。
41 回	シクリッド、アナバスの仲間	熱帯魚のシクリッド、アナバスについて学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
42 回	ディスカスの種類と管理	熱帯魚のディスカスの仲間について学び、飼育管理方法を理解する。
43 回	ディスカスの種類と管理	熱帯魚のディスカスの仲間について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
44 回	ナマズの仲間	熱帯魚のナマズの仲間について学び、理解する。
45 回	ナマズの仲間	熱帯魚のナマズの仲間について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
46 回	汽水魚、古代魚	熱帯魚の汽水魚、古代魚の仲間について学び、理解する。
47 回	汽水魚、古代魚	熱帯魚の汽水魚、古代魚の仲間について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
48 回	今までの振り返り	今までの授業で熱帯魚について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
49 回	今までの振り返り	豆テストを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。
50 回	エビ・貝の仲間、クリーナーフィッシュ	エビ、貝の仲間とクリーナーフィッシュについて学び、理解する。
51 回	エビ・貝の仲間、クリーナーフィッシュ	エビ、貝の仲間とクリーナーフィッシュについて学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
52 回	金魚のからだの構造	金魚のからだの構造について詳しく学び、その特徴を理解する。
53 回	金魚のからだの構造	金魚のからだの構造について詳しく学び、その特徴を復習しながらメンテナンスを実施する。
54 回	金魚の種類①	金魚の代表的な品種とその形状について詳しく学び、その特徴を理解する。
55 回	金魚の種類①	金魚の代表的な品種とその形状について、その特徴を復習しながらメンテナンスを実施する。
56 回	金魚の種類②	金魚のその他の品種とその形状について詳しく学び、その特徴を理解する。
57 回	金魚の種類②	金魚のその他の品種とその形状について、その特徴を復習しながらメンテナンスを実施する。
58 回	金魚の病気（寄生虫）	金魚の寄生虫に由来する病気について詳しく学び、その特徴を理解する。
59 回	金魚の病気（寄生虫）	金魚の寄生虫に由来する病気について、その特徴を復習しながらメンテナンスを実施する。
60 回	金魚の病気（細菌、その他）	金魚の細菌やウィルスに由来する病気について、その特徴を復習しながらメンテナンスを実施する。

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
61 回	爬虫類両生類について	爬虫類両生類の品種とその形状について詳しく学び、その特徴を理解する。
62 回	爬虫類両生類について	爬虫類両生類の品種とその形状について詳しく学び、その特徴を理解する。
63 回	爬虫類両生類について	爬虫類両生類の品種とその形状について詳しく学び、その特徴を理解する。
64 回	爬虫類両生類について	爬虫類両生類の品種とその形状について詳しく学び、その特徴を理解する。
65 回	アクア実習学まとめ	今までの授業で金魚について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
66 回	アクア実習学まとめ	確認テストを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。
67 回	アクア実習学まとめ	今までの授業で金魚について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
68 回	アクア実習学まとめ	確認テストを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 動物管理実践学 (水族館概論Ⅰ)		教員名 男鹿水族館 (大野)	
科目時間数：12 時間		授業の種類：講義・演習・実習	
必修・選択 の別：必修・選択	配当学年：1	開講時期：前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 犬・猫だけではなく、近年の動物の多様化に合わせ、動物園水族館動物や野生動物の生態・飼育方法などを学び、動物を取り扱う職業につくための基礎を身に付けていく。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 各種生体の寿命・体長・飼育方法・飼養基準・給餌方法・疾患などについて学び、それらの情報を発信できる人材になれるよう、説明の仕方、接客等においても板書、教科書、資料等を用い進めていく 【授業における達成課題】 口頭における各種生体の質問に対し答えることができる 筆記試験における正答率が60%以上			
	使用教材	出版社	
【教員担当の実務経験の有無】有・無 【内 容】 水族館での勤務経験がある。			
【評価方法とその内容】 筆記試験において正答率60%以上、授業出席率80%以上			
【必要な予習等の内容】 教科書を活用して、次回の学習範囲を指定し、分類・飼養基準・病名等のノートへの書き取りを指示して実行する			

科目名 動物管理学（水族館概論Ⅰ）		科目時間総数 12 時間	教員名 男鹿水族館
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	オリエンテーション	授業の目的を理解し、最終的に何が身についていけばよいかを具体的にイメージする	
2 回	日本の水族館の歴史と所在	日本の水族館の歴史と所在地を知り、動物園の現状を学ぶ。	
3 回	水族館動物とは	動物園動物の分類とほかの動物との違いを学び、理解する。	
4 回	輸入動物に関わる問題	ワシントン条約や家畜伝染病予防法、特定外来生物法について学び、動物園動物の輸入に関わる問題と現状について理解する。	
5 回	環境エンリッチメントについて	環境エンリッチメントについて実例を学び、動物園での取り組みを理解する。	
6 回	シロクマの飼育	シロクマの種類や特徴を学び、理解を深める。	
7 回	ペンギンの飼育	ペンギンの種類や特徴を学び、理解を深める。	
8 回	カワウソの飼育	カワウソの種類や特徴を学び、理解を深める。	
9 回	海獣類の飼育	アシカ、アザラシ、オットセイなどの種類や特徴を学び、理解を深める。	
10 回	海洋生物まとめ	筆記テストにより理解を深める	
11 回	筆記試験	筆記テストにより理解を深める	
12 回	筆記試験	筆記テストにより理解を深める	

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 動物管理実践学 (動物園実習学)		教員名 盛岡市動物公園 (荒井、松原) 平元	
科目時間数：26 時間		授業の種類：講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別：必修・選択	配当学年：1	開講時期：前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 犬・猫だけではなく、近年の動物の多様化に合わせ、動物園水族館動物や野生動物の生態・飼育方法などを学び、動物を取り扱う職業につくための基礎を身に付けていく。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができていく 【授業全体の内容の概要】 各種生体の寿命・体長・飼育方法・飼養基準・給餌方法・疾患などについて学び、それらの情報を発信できる人材になれるよう、説明の仕方、接客等においても板書、教科書、資料等を用い進めていく 【授業における達成課題】 口頭における各種生体の質問に対し答えることができる 筆記試験における正答率が60%以上			
	使用教材	出版社	
【教員担当の実務経験の有無】有 ・ 無 【内 容】 飼育員としての勤務経験がある ZOOM0学芸員、岩手県環境評議会委員長、盛岡市鳥獣被害対策実施隊としての活動実績がある			
【評価方法とその内容】 授業出席率80%以上、レポートの内容で評価			
【必要な予習等の内容】 学習範囲を指定し、分類・飼養基準・病名等のノートへの書き取りを指示して実行する			

科目名 動学管理実戦学（動物園実習Ⅰ）		科目時間総数 26 時間	教員名 盛岡市動物公園
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	オリエンテーション	授業の目的を理解し、最終的に何が身についていけばよいかを具体的にイメージする	
2 回	オリエンテーション	授業の目的を理解し、最終的に何が身についていけばよいかを具体的にイメージする	
3 回	ゾウの飼育1	ゾウの種類や特徴を学び、理解を深める。	
4 回	ゾウの飼育2	ゾウの飼育や健康管理について学び、理解を深める。	
5 回	ゾウの飼育3	ゾウの飼育や健康管理について学び、理解を深める。	
6 回	ゾウの飼育4	ゾウの管理上の注意や過去の事故などを学び、理解を深める。	
7 回	ゾウの飼育5	ゾウの管理上の注意や過去の事故などを学び、理解を深める。	
8 回	ゾウの飼育6	ゾウの管理上の注意や過去の事故などを学び、理解を深める。	
9 回	ゾウの飼育（確認テスト）	確認テストを実施し、習ったことの知識を確認し、復習することによって理解を深める。	
10 回	ゾウの飼育（確認テスト）	確認テストを実施し、習ったことの知識を確認し、復習することによって理解を深める。	
11 回	触れ合い動物の飼育1	触れ合い動物の種類や特徴を学び、理解を深める。	
12 回	触れ合い動物の飼育2	触れ合い動物の飼育や健康管理について学び、理解を深める。	
13 回	触れ合い動物の飼育3	触れ合い動物の管理上の注意や過去の事故などを学び、理解を深める。	
14 回	触れ合い動物の飼育4	触れ合い動物の管理上の注意や過去の事故などを学び、理解を深める。	
15 回	触れ合い動物の確認テスト	確認テストを実施し、習ったことの知識を確認し、復習することによって理解を深める。	
16 回	触れ合い動物の確認テスト	確認テストを実施し、習ったことの知識を確認し、復習することによって理解を深める。	
17 回	触れ合い動物の確認テスト	確認テストを実施し、習ったことの知識を確認し、復習することによって理解を深める。	
18 回	触れ合い動物の確認テスト	確認テストを実施し、習ったことの知識を確認し、復習することによって理解を深める。	
19 回	日本の動物の飼育1	日本の動物の種類や特徴を学び、理解を深める。	
20 回	日本の動物の飼育2	日本の動物の飼育や健康管理について学び、理解を深める。	
21 回	日本の動物の飼育3	日本の動物の管理上の注意や過去の事故などを学び、理解を深める。	
22 回	日本の動物の飼育4	日本の動物の飼育や健康管理について学び、理解を深める。	
23 回	日本の動物の飼育5	日本の動物の飼育や健康管理について学び、理解を深める。	
24 回	日本の動物の確認テスト	確認テストを実施し、習ったことの知識を確認し、復習することによって理解を深める。	
25 回	日本の動物の確認テスト	確認テストを実施し、習ったことの知識を確認し、復習することによって理解を深める。	
26 回	日本の動物の確認テスト	確認テストを実施し、習ったことの知識を確認し、復習することによって理解を深める。	

授業計画表

動物飼育科MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 ペットビジネス教養Ⅰ (基礎学力)		教員名 市村 香織	
科目時間数 : 30 時間		授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : 必修・選択		配当学年 : 1	開講時期 : 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 MC Lスタンダードプログラムを通じ、知識、思いやりの心、行動力の必要を見出し、意欲的に学校生活を送る。 社会で活躍するために必要な能力の向上を目的とする。 周囲と協働し、自ら気づき、考え、行動する能力を磨く。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 1. 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 2. 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 MC Lスタンダードプログラム第1～9回 校内外の活動、イベントを企画運営、基礎学力の向上、人間性の向上を養うための考え方を学び理解する。基礎学力を身につける 【授業における達成課題】 学校生活（受講姿勢も含めた行動）や就職後の活躍。 振り返りシートの提出			
	使用教材	出版社	
学生用	プリント等		
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 ペットショップにてペットショップスタッフとして実務経験あり			
【評価方法とその内容】 授業出席率80%以上。 振り返りシートの提出			
【必要な予習等の内容】 配布資料（プリント等）の復習をして、次回の授業に参加するように指示をして実行する。			

科目名 ペットビジネス教養Ⅰ(基礎学力)		科目時間総数 30	時間	教員名 市村 香織
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標		
1回	スタンダードプログラム	基本的なマナーや第一印象が大切にされる理由を学ぶ		
2回	スタンダードプログラム	基本的なマナーや第一印象が大切にされる理由を学ぶ		
3回	スタンダードプログラム	ディスカッションの流れおよびアイデア出しについて学ぶ		
4回	スタンダードプログラム	ディスカッションの流れおよびアイデア出しについて学ぶ		
5回	スタンダードプログラム	学ぶ理由や目的を学ぶ		
6回	スタンダードプログラム	学ぶ理由や目的を学ぶ		
7回	スタンダードプログラム	人との関わりについて、自己理解と他者理解について学ぶ		
8回	スタンダードプログラム	人との関わりについて、自己理解と他者理解について学ぶ		
9回	スタンダードプログラム	動物系イベントを成功させるポイントを学ぶ		
10回	スタンダードプログラム	動物系イベントを成功させるポイントを学ぶ		
11回	スタンダードプログラム	経済活動と倫理について学ぶ		
12回	スタンダードプログラム	経済活動と倫理について学ぶ		
13回	スタンダードプログラム	プロの意識について学ぶ		
14回	スタンダードプログラム	プロの意識について学ぶ		
15回	スタンダードプログラム	長期的かつグローバルな視点で「理想の社会」や「自身の会社との関わり方」について学ぶ		
16回	スタンダードプログラム	長期的かつグローバルな視点で「理想の社会」や「自身の会社との関わり方」について学ぶ		
17回	スタンダードプログラム	専門学校卒業を迎えるときの自分自身の姿を描き、目標宣言をする		
18回	スタンダードプログラム	専門学校卒業を迎えるときの自分自身の姿を描き、目標宣言をする		
19回	基礎学力	読み、書き、計算、考える力を養う		
20回	基礎学力	読み、書き、計算、考える力を養う		
21回	基礎学力	読み、書き、計算、考える力を養う		
22回	基礎学力	読み、書き、計算、考える力を養う		
23回	基礎学力	読み、書き、計算、考える力を養う		
24回	基礎学力	読み、書き、計算、考える力を養う		
25回	基礎学力	読み、書き、計算、考える力を養う		
26回	基礎学力	読み、書き、計算、考える力を養う		
27回	基礎学力	読み、書き、計算、考える力を養う		
28回	基礎学力	読み、書き、計算、考える力を養う		
29回	今までの復習	今までの学校生活を振り返る		
30回	目標決め	来年度の計画を立てる		

授業計画表

動物飼育科MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名		ペットビジネス教養Ⅰ (社会人教養Ⅰ)		教員名		岩泉 美和子 先生							
科目時間数：				30	時間	授業の種類：		講義	・	演習	・	実習	
必修・選択 の別		必修・選択		配当学年：		1	開講時期：		前期	・	後期	・	集中
【授業の目的・ねらい】 社会人に必要となるビジネスマナーを身に付ける 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 1. 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 2. 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 3. 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる 4. 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 仕事の取り組み方、敬語、接遇対応、ビジネス文書の作成、訪問のマナー、冠婚葬祭のマナーを身に付ける。 【授業における達成課題】 筆記試験での正答が60%以上													
		使用教材				出版社							
学生用		社会で生きるビジネスマナー				ウィネット							
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 金融機関関連企業等で勤務経験がある。													
【評価方法とその内容】 筆記試験での正答が60%以上、授業出席率80%以上。													
【必要な予習等の内容】 毎回の授業の最後に、次回の授業内容について教科書を活用して予習を指示する。													

科目名 ペットビジネス教養Ⅰ（社会人教養Ⅰ）		科目時間総数 30 時間	教員名 岩泉 美和子 先生
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	オリエンテーション	ビジネスマナーを学ぶ目的を理解する。	
2 回	オリエンテーション	目標設定をする。相互理解とは何か理解する。	
3 回	仕事に取り組む姿勢	学校生活と社会人の生活の違いを知る。社会人として求められる資質を理解する。	
4 回	仕事に取り組む姿勢	社会人にふさわしい身だしなみを理解する。指示の受け方、報告、相談の仕方を理解する。	
5 回	職場の人間関係	社内・社外の人間関係について理解する	
6 回	職場の人間関係	人間関係づくりの基本 アサーションについて理解する	
7 回	基本動作	コミュニケーションの心構えを理解する。姿勢、お辞儀、立ち座り、表情の注意点を理解する。	
8 回	基本動作	話し方の基本を理解し、言葉選びのマナーを学ぶ。 聴き方の基本を理解する。	
9 回	言葉遣い	敬語の基本を理解する	
10 回	言葉遣い	間違えやすい敬語を覚え、正しい言葉遣いができるようになる。アルバイト言葉を理解する。	
11 回	来客対応	接遇の意義と重要、接遇の心構えを理解する。	
12 回	来客対応	お客様の受付について基本用語を理解する。	
13 回	来客対応	分かりやすい方向の指し方を理解する。	
14 回	来客対応	案内の要領、席次、見送りの仕方を理解する。	
15 回	電話対応	電話対応の注意点を理解する。電話の受け方の基本と用語を理解する。	
16 回	電話対応	様々な電話の対応の仕方を理解する。電話のかけ方を理解する。	
17 回	モデル犬の対応	お迎え～お返しまでの流れを把握する	
18 回	モデル犬の対応	お客様対応時の重要ポイントを確認し、理解する。	
19 回	訪問マナー	事業所への訪問前の準備について理解する。	
20 回	訪問マナー	訪問当日のマナーについて理解する。	
21 回	訪問マナー	名刺交換の仕方、自己紹介、離席時のマナーを理解する。	
22 回	ビジネス文書	ビジネス文書とは何か理解する。	
23 回	ビジネス文書	ビジネス文書の書き方を理解する。	
24 回	ビジネス文書	社内文書の基本、社外文書の基本を学ぶ。	
25 回	ビジネス文書	手紙、はがきについてのマナーを理解する。	
26 回	冠婚葬祭	冠婚葬祭のマナーについて理解する。	
27 回	冠婚葬祭	冠婚葬祭のマナーについて理解する。	
28 回	試験対策	試験対策 今までの復習	
29 回	試験対策	試験対策 今までの復習	
30 回	試験解説	試験解説 社会人教養で学ぶべき内容を理解する。	

授業計画表

動物飼育科MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 ペットビジネス教養Ⅰ (学校行事)		教員名 市村 香織	
科目時間数： 90 時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修・選択	配当学年： 1		開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 学校生活を実りあるものにするための考え方を学ぶ。 社会人に必要となる社会人基礎能力を磨き、社会で働く心構えを身に付ける。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 1. 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 2. 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 3. 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる 4. 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 オリエンテーション、学校行事、国内研修等。 【授業における達成課題】 学校行事等を通じて、目標達成やその過程を経験して日常生活や就職後の活動で活躍できる。			
	使用教材	出版社	
学生用	プリント等		
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 ペットショップでペットショップスタッフとして勤務経験がある。			
【評価方法とその内容】 受講姿勢と取り組み成果、レポート、授業出席率90%以上。			
【必要な予習等の内容】 行事等について、事前に担当分野の内容を打ち合わせをして授業に参加することを指示して実行する。			

科目名 ペットビジネス教養Ⅰ（学校行事）		科目時間総数 90 時間	教員名 市村 香織
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	特別授業	オリエンテーション	学校での過ごし方
2 回	特別授業	オリエンテーション	学校での過ごし方
3 回	特別授業	オリエンテーション	学校での過ごし方
4 回	特別授業	オリエンテーション	学校での過ごし方
5 回	特別授業	オリエンテーション	学校での過ごし方
6 回	特別授業	学生交流会	
7 回	特別授業	学生交流会	
8 回	特別授業	学生交流会	
9 回	特別授業	健康診断	
10 回	特別授業	健康診断	
11 回	特別授業	避難訓練	
12 回	特別授業	同行避難について	
13 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
14 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
15 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
16 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
17 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
18 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
19 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
20 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
21 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
22 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
23 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
24 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
25 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
26 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
27 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
28 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
29 回	行事	ドッグフェスティバル準備	
30 回	行事	ドッグフェスティバル準備	

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
31 回	行事	ドッグフェスティバル準備
32 回	行事	ドッグフェスティバル準備
33 回	行事	ドッグフェスティバル準備
34 回	行事	ドッグフェスティバル準備
35 回	行事	ドッグフェスティバル準備
36 回	行事	ドッグフェスティバル準備
37 回	行事	ドッグフェスティバル
38 回	行事	ドッグフェスティバル
39 回	行事	ドッグフェスティバル
40 回	行事	ドッグフェスティバル
41 回	行事	ドッグフェスティバル
42 回	行事	ドッグフェスティバル
43 回	行事	スポーツ大会
44 回	行事	スポーツ大会
45 回	行事	スポーツ大会
46 回	行事	スポーツ大会
47 回	行事	スポーツ大会
48 回	行事	スポーツ大会
49 回	特別授業	今までの振り返り
50 回	特別授業	目標の確認
51 回	特別授業	校長講話
52 回	特別授業	卒業生講話
53 回	特別授業	卒業生講話
54 回	特別授業	卒業生講話
55 回	行事	学園祭
56 回	行事	学園祭
57 回	行事	学園祭
58 回	行事	学園祭
59 回	行事	学園祭
60 回	行事	学園祭

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
61 回	行事	学園祭
62 回	行事	学園祭
63 回	行事	学園祭
64 回	特別授業	動物愛護週間 ボランティア活動
65 回	特別授業	動物愛護週間 ボランティア活動
66 回	特別授業	動物愛護週間 ボランティア活動
67 回	特別授業	国内研修
68 回	特別授業	国内研修
69 回	特別授業	国内研修
70 回	特別授業	国内研修
71 回	特別授業	国内研修
72 回	特別授業	国内研修
73 回	特別授業	国内研修
74 回	特別授業	国内研修
75 回	特別授業	国内研修
76 回	特別授業	国内研修
77 回	特別授業	国内研修
78 回	特別授業	国内研修
79 回	行事	MC L スポーツ大会
80 回	行事	MC L スポーツ大会
81 回	行事	MC L スポーツ大会
82 回	行事	ワンだふるL i f e i n はなまき準備
83 回	行事	ワンだふるL i f e i n はなまき準備
84 回	行事	ワンだふるL i f e i n はなまき準備
85 回	行事	ワンだふるL i f e i n はなまき準備
86 回	行事	ワンだふるL i f e i n はなまき準備
87 回	行事	ワンだふるL i f e i n はなまき準備
88 回	行事	ワンだふるL i f e i n はなまき準備
89 回	行事	ワンだふるL i f e i n はなまき準備
90 回	行事	ワンだふるL i f e i n はなまき準備

授業計画表

動物飼育 科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 インターンシップ実習 I		教員名 市村 香織	
科目時間数 : 144 時間		授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別 : 必修・選択	配当学年 :	1	開講時期 : 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 修学した知識と技術が実際の動物関連分野でどのように活かされているかをペットサロン、ペットショップ、動物病院などで体験、実習をする。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 インターンシップ（職場実習）として、ペットサロン、ペットショップ、動物病院などの施設構造や機能を理解することで、実践的な動物関連の仕事内容と専門知識及び倫理観を習得する。また、インターンシップ先への実習依頼については、学生が行うことでビジネスマナーを身に付ける。 【授業における達成課題】 動物関連業界への就職を実現するだけでなく、業界での活躍を目指す。			
	使用教材	出版社	
学生用	実践ビジネスマナー	ウイネット	
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 ペットショップにてペットショップスタッフとしての実務経験あり			
【評価方法とその内容】 実習評価表（実習先記入）、インターンシップアンケート（実習先記入）、実習日誌・実習日程（学生、実習先記入）、インターンシップレポート・振り返りシート（学生記入）			
【必要な予習等の内容】 翌日の実習内容を担当者に確認をして、必要な内容について教科書等を活用して確認をする。			

科目名		科目時間総数	教員名
インターンシップ実習 I		144 時間	市村 香織
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	インターンシップの実施の説明	インターンシップの目的や取り組みについて理解する。	
2 回	インターンシップ実施報告会①	複数名の2年生の学生より、インターンシップの実施報告を聞き取り組みについての理解を深める。	
3 回	インターンシップ実施報告会②	複数名の2年生の学生より、インターンシップの実施報告を聞き取り組みについての理解を深める。	
4 回	インターンシップ実施報告会③	複数名の2年生の学生より、インターンシップの実施報告を聞き取り組みについての理解を深める。	
5 回	ビジネスマナーの基本①	インターンシップに向けて、ビジネスマナーの基本を理解する。	
6 回	ビジネスマナーの基本②	インターンシップに向けて、ビジネスマナーの基本を理解する。	
7 回	インターンシップ予定先への受入交渉①	インターンシップ予定先への受入交渉（電話）に向けて、電話対応マナーを理解する。	
8 回	インターンシップ予定先への受入交渉②	インターンシップ予定先への受入交渉（電話）に向けて、電話対応マナーを理解する。	
9 回	インターンシップ予定先への受入交渉③	インターンシップ予定先への受入について、電話で交渉をする。	
10 回	インターンシップの実施の目標設定①	インターンシップの目的や取り組みについて理解し上で、実習先や目標を設定する。	
11 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
12 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
13 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
14 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
15 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
16 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
17 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
18 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
19 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
20 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
21 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
22 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
23 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
24 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
25 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
26 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
27 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
28 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
29 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
30 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
121 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
122 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
123 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
124 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
125 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
126 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
127 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
128 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
129 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
130 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
131 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
132 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
133 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
134 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
135 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
136 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
137 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
138 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
139 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
140 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
141 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
142 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。
143 回	インターンシップ（職場実習）のまとめ①	実習日誌、インターンシップレポート、実習振り返りシートを作成する。
144 回	インターンシップ（職場実習）のまとめ②	実習日誌、インターンシップレポート、実習振り返りシートを作成する。

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 動物飼養管理総論Ⅱ (飼育学Ⅱ)		教員名 市村 香織	
科目時間数： 20 時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別： 必修・選択	配当学年： 2	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 パピーの飼育管理、シニアの衰えについて知識を身に付け、飼い主に適切なアドバイスをすることができる。			
【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 1. 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 2. 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる 4. 社会で活躍と働くという心構えができている			
【授業における達成課題】 筆記試験において正答が80%以上。			
	使用教材	出版社	
学生用	プリント等		
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 ドッグトレーナーとしての勤務経験がある			
【評価方法とその内容】 筆記試験において正答が60%以上、授業出席率80%以上。			
【必要な予習等の内容】 次回の授業内容について教科書を活用して予習をすることを指示して実行する。			

科目名 動物飼養管理総論Ⅱ（飼育学Ⅱ）		科目時間総数 20 時間	教員名 市村 香織
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	パピーケア	犬のライフサイクルについて理解し、成長の変化を説明できる。	
2 回	パピーケア	子犬が親兄弟との関わりで身に付けることを3つ答えることができる	
3 回	パピーケア	子犬を迎える前に飼い主が考える、学ぶべきことを理解し説明できる。	
4 回	パピーケア	子犬の入手先を理解し、どのような施設で子犬を迎えるべきか説明できる。	
5 回	パピーケア	子犬を選ぶポイントを3つ答えることができ、説明できる。	
6 回	パピーケア	子犬を迎えた後に注意することを理解し、説明できる。	
7 回	パピーケア	子犬の運動について理解し、説明できる。	
8 回	パピーケア	子犬の遊びについて理解し、安全なおもちゃの選び方を説明できる。	
9 回	パピーケア	子犬の甘噛みについて説明できる。	
10 回	パピーケア	子犬の社会化について理解し、説明できる。	
11 回	パピーケア	社会化のポイントを説明できる。	
12 回	パピーケア	子犬の留守番について説明できる。	
13 回	パピーケア	子犬のトイレトレーニングについて説明できる。	
14 回	パピーケア	クレートの使用について理解し、適切なサイズやポイントを説明できる。	
15 回	パピーケア	お手入れについて理解し、必要なケアを受け入れてもらう為のポイントの説明できる。	
16 回	シニアケア	犬の年齢による衰えるポイントを説明できる。	
17 回	シニアケア	高齢犬との暮らし方について理解し、必要なケアを受け入れてもらう為のポイントの説明できる。	
18 回	シニアケア	ペットロスとは何か理解し、回復までのプロセスやペットロスによる症状を説明できる。	
19 回	シニアケア	ペットロスとは何かを理解し、気持ちの整理のつけ方を説明できる。	
20 回	シニアケア	見送り方について、合同火葬・個別一任火葬・個別立ち合い火葬とは何かを説明できる。	

科目名 動物飼養管理総論Ⅱ (飼育実習Ⅱ)		教員名 市村 香織	
科目時間数 30 時間		授業の種類 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 必修・選択	配当学年 2	開講時期 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 学校動物の飼育の中から、飼い主の気持ちを知るとともに、適切な動物の飼育の仕方や適切な扱い方を身に付ける。 他者とコミュニケーションを取りながら、作業を進めるために必要な能力を身に付ける。 下級学生へ指導する能力を身に付ける。			
【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 1. 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる 4. 社会で活躍と働くという心構えができている			
【授業全体の内容の概要】 学校犬、猫、小動物の飼育法について、下級学生へ指導をしながら、学校動物の飼育管理を行う。			
【授業における達成課題】 学校にいる動物について基本的な飼育ができる。			
	使用教材	出版社	
学生	プリント等		
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 ドッグトレーナーとして勤務経験あり			
【評価方法とその内容】 授業出席率80%以上。			
【必要な予習等の内容】 配布資料（プリント等）の復習をして、次回の授業に参加するように指示をして実行する。			

科目名 動物飼養管理総論Ⅱ(飼育実習)		科目時間総数 30 時間	教員名 市村 香織
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	小動物の飼育	小動物の運動について理解を深める。オモチャの扱い方を学び、実際の飼育に使用する。	
2 回	小動物の飼育	小動物の休息について理解を深める。小動物がいる環境設定について学ぶ。	
3 回	小動物の飼育	小動物の休息について理解を深める。小動物がいる環境設定について学び、実際の猫の飼育に使用する。	
4 回	小動物の飼育	小動物との関わり方について理解を深める。良い関係を築くために、どのような方法があるかを知る。	
5 回	小動物の飼育	小動物との関わり方について理解を深める。良い関係を築くために、どのような方法があるかを知り、実際の飼育に使用する。	
6 回	小動物の飼育	小動物の健康管理について理解を深める。異常と正常の違いを知る。	
7 回	小動物の飼育	小動物の健康管理について理解を深める。異常と正常の違いを知り、実際の飼育に使用する。	
8 回	小動物の飼育	小動物の健康管理について理解を深める。健康維持をするために、どのようなボディケアが必要かを理解する。	
9 回	小動物の飼育	小動物の健康管理について理解を深める。健康維持をするために、どのようなボディケアが必要かを理解し、実際の飼育に使用する。	
10 回	飼い主への説明	相手に情報を分かりやすく伝える方法を学び、相手に合わせて説明する意識を持つ。	
11 回	飼い主への説明	イヌの基本的な扱い方、接し方について説明する能力を身に付ける	
12 回	飼い主への説明	イヌの食事の準備の仕方、与え方について説明する能力を身に付ける。	
13 回	飼い主への説明	イヌの運動の仕方、注意点について説明する能力を身に付ける。	
14 回	飼い主への説明	イヌの環境を設定する方法、注意点について説明する能力を身に付ける。	
15 回	飼い主への説明	イヌとの社会的な関わり方を説明する能力を身に付ける。	
16 回	飼い主への説明	イヌの異常を発見し、適切な対処法を説明する能力を身に付ける。	
17 回	飼い主への説明	ネコの基本的な扱い方、接し方について説明する能力を身に付ける	
18 回	飼い主への説明	ネコの食事の準備の仕方、与え方について説明する能力を身に付ける。	
19 回	飼い主への説明	ネコの運動の仕方、注意点について説明する能力を身に付ける。	
20 回	飼い主への説明	ネコの環境を設定する方法、注意点について説明する能力を身に付ける。	
21 回	飼い主への説明	ネコとの社会的な関わり方を説明する能力を身に付ける。	
22 回	飼い主への説明	ネコの異常を発見し、適切な対処法を説明する能力を身に付ける。	
23 回	飼い主への説明	小動物の基本的な扱い方、接し方について説明する能力を身に付ける	
24 回	飼い主への説明	小動物の食事の準備の仕方、与え方について説明する能力を身に付ける。	
25 回	飼い主への説明	小動物の運動の仕方、注意点について説明する能力を身に付ける。	
26 回	飼い主への説明	小動物の環境を設定する方法、注意点について説明する能力を身に付ける。	
27 回	飼い主への説明	小動物との社会的な関わり方を説明する能力を身に付ける。	
28 回	飼い主への説明	小動物の異常を発見し、適切な対処法を説明する能力を身に付ける。	
29 回	飼い主への説明	ペットを適切に飼育するために、飼い主がすべきことについて、グループで討論し、理解を深める。	
30 回	飼い主への説明	ペットを適切に飼育することを普及するために、動物のプロができることについて、グループで討論し、理解を深める。	

授業計画表

動物飼育		科	MCL盛岡ペットワールド専門学校							
科目名		動物看護学Ⅱ (動物看護基礎学)		教員名	高坂 恵梨香					
科目時間数：		30	時間	授業の種類：		講義	・	演習	・	実習
必修・選択 の別：		必修	・	選択	担当学年：	2	開講時期：	前期	・	後期・集中
【授業の目的・ねらい】 犬の病気について知識を身につける 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 3. 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる 4. 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 犬の病気について、種類、対処、予防法を学ぶ 【授業における達成課題】 犬の正常と異常を見極め、適切な対処ができる 病気の予防法を説明できる 授業出席率80%以上										
		使用教材			出版社					
学生用		わかる犬の病気			インターズー					
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 動物病院で動物看護師として勤務経験がある										
【評価方法とその内容】 筆記試験での正答60%以上、授業出席率80%以上										
【必要な予習等の内容】 次回の授業に向けて教科書を一読することを指示して実行する										

科目名 動物看護学Ⅱ（動物の病気）		科目時間総数 30 時間	教員名 高坂恵梨香
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	犬の全身チェック	全身部位の名称の確認。B C Sについて理解し判断できる	
2 回	犬の全身チェック	ホルモンの影響で起きる体格の変化、トリミングの際の注意ポイントを理解する	
3 回	ズーノーシス	幼虫移行症、エキノコックス症、トキソプラズマ症について理解する	
4 回	ズーノーシス	狂犬病、S F T Sについて理解する	
5 回	ズーノーシス	パストレラ症、猫ひっかき病について理解する	
6 回	ズーノーシス	レプトスピラ症、オウム病について理解する	
7 回	皮膚の病気	原発疹続発疹について理解する	
8 回	皮膚の病気	犬アトピー性皮膚炎、食物アレルギーについて理解する	
9 回	皮膚の病気	ノミアレルギー、接触アレルギーについて理解する	
10 回	皮膚の病気	膿皮症、マラセチア皮膚炎、皮膚糸状菌症について理解する	
11 回	皮膚の病気	ニキビダニ症、脱毛症について理解する	
12 回	耳の病気	外耳炎、耳ヒゼンダニ症、疥癬について理解する	
13 回	耳の病気	耳血腫、中耳炎、内耳炎について理解する	
14 回	眼の病気	角膜炎、角膜潰瘍、白内障について理解する	
15 回	眼の病気	緑内障、睫毛異常、網膜の病気について理解する	
16 回	眼の病気	結膜炎、ぶどう膜炎、流涙症について理解する	
17 回	鼻と口の病気	歯周病、口鼻瘻管、乳歯遺残について理解する	
18 回	鼻と口の病気	歯磨きの仕方について理解し、説明できる	
19 回	おしり・お腹まわりの病気	下痢・血便、会陰ヘルニアについて理解する	
20 回	おしり・お腹まわりの病気	肛門囊炎、肛門周囲の腫瘍について理解する	
21 回	おしり・お腹まわりの病気	腎不全、前立腺疾患について理解する	
22 回	おしり・お腹まわりの病気	膀胱炎、尿石症について理解する	
23 回	おしり・お腹まわりの病気	停留精巣、偽妊娠、子宮蓄膿症について理解する	
24 回	おしり・お腹まわりの病気	乳腺腫瘍、臍ヘルニアについて理解する	
25 回	足先・膝・腰まわりの病気	跛行している犬のトリミングの注意点について理解する	
26 回	足先・膝・腰まわりの病気	膝蓋骨脱臼、股関節形成不全について理解する	
27 回	足先・膝・腰まわりの病気	てんかん、水頭症、椎間板ヘルニアについて理解する	
28 回	シャンプーの基礎知識	薬用シャンプーの種類と働きについて理解する	
29 回	シャンプーの基礎知識	正しい清掃、消毒方法について理解する	
30 回	動物の病気まとめ	動物の病気について復習をして理解を深める	

授業計画表

動物飼育		科	MCL盛岡ペットワールド専門学校	
科目名		動物看護学Ⅱ (栄養学・繁殖学)		
教員名		笹 美冬		
科目時間数：		20	時間	授業の種類：
必修・選択の別：		必修・選択	配当学年：	2
		開講時期：	前期・後期・集中	
〔授業の目的・ねらい〕 雌雄の違いの理解と判別、5大栄養素について基礎を理解し、また、罹患しやすい病気5つを、かかりやすい犬種とともに理解し、生体の管理を適切に行えるようになるのがねらい 〔動物飼育科ディプロマポリシーとの関連〕 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 2. 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 3. 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる 4. 社会で活躍と働くという心構えができている 〔授業全体の内容の概要〕 動物の健康維持として必要な医要素を学び、その基礎知識などを学び、様々なペットフードやパンフレット等に記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談や指導を行うための知識を習得する。また、疾患に対しての適切な栄養学により、食事指導をする。 〔授業における達成課題〕 筆記試験で60点以上				
	使用教材		出版社	
学生用	プリント			
〔教員担当の実務経験の有無〕 有 ・ 無 〔内 容〕 動物病院で動物看護師としての勤務経験がある				
〔評価方法とその内容〕 筆記試験において60点以上、授業出席率90%以上。				
〔必要な予習等の内容〕 配布（プリント等）の復習をして、次回の授業に参加するように指示をして実行する。				

科目名 動物看護学Ⅱ（栄養学・繁殖		科目時間総数 20 時間	教員名 笹 美冬
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	メス犬について（生殖器）	メス犬の生殖器の構造を理解する	
2 回	メス犬について（生殖器）	卵子ができ、排卵が起こるメカニズムを理解する	
3 回	オス犬について（生殖器）	オス犬の生殖器の構造を理解する	
4 回	オス犬について（生殖器）	生殖器の生理とホルモンについてを理解する	
5 回	メス犬について	発情周期とホルモンの関係を理解する	
6 回	メス猫の発情	猫の発情について理解する	
7 回	交尾について	交尾様式について理解する	
8 回	犬の妊娠について	妊娠に診断方法と、妊娠期の犬の変化について理解する	
9 回	犬の出産について	出産の経過について理解する	
10 回	犬の出産について	難産とはどういう状態のことか理解する	
11 回	犬の出産について 新生児のケア	帝王切開が必要な状態、犬種を理解する 新生児のケアはどのように行うのか理解する	
12 回	繁殖に係わる疾病について・まとめテスト	繁殖に関係の深い疾患について理解する	
13 回	栄養素について	栄養素の分類について理解する	
14 回	栄養素について	タンパク質について理解する	
15 回	栄養素について	脂質について理解する	
16 回	栄養素について	炭水化物について理解する	
17 回	栄養素について	ビタミンについて理解する	
18 回	栄養素について	ミネラルについて理解する	
19 回	栄養素の総まとめ	5台栄養素のについて説明できる	
20 回	産科繁殖パピーケアまとめ	試験により理解を深める	

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 グルーミング学Ⅱ (グルーミング実習Ⅱ)		教員名 佐藤 丈嗣	
科目時間数： 110 時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別：	必修・選択	配当学年：	2 開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 犬のシャンプーケアを通して、日頃の健康管理を実践する。簡単なお手入れケアができる技術を学び行動する 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 道具の種類と使用用途 グルーミングの手順とやり方 犬の扱い方 【授業における達成課題】 本科目の筆記試験の正答率60%以上 グルーミングの手順を実践し、犬のお手入れができる			
	使用教材	出版社	
学生用	プリント等		
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内容】 トリマー・ドッグトレーナーとして勤務経験がある 【評価とその内容】 筆記試験にて正答率60%以上、実技試験の合格、授業出席率80%以上 【必要な予習などの内容】 次回の授業に向けて、担当犬のカルテ資料等を確認することを指示し実行する			

科目名		科目時間総数	教員名
科		110	佐藤 丈嗣
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
2	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
3	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
4	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
5	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
6	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
7	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
8	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
9	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
10	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
11	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
12	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
13	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
14	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
15	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
16	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
17	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
18	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
19	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
20	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
21	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
22	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
23	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
24	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
25	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
26	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
27	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
28	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
29	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	
30	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る	

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
31 回	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る
32 回	生体実習	3人で作業をし安全に終わることが出来る
33 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
34 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
35 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
36 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
37 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
38 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
39 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
40 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
41 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
42 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
43 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
44 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
45 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
46 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
47 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
48 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
49 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
50 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
51 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
52 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
53 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
54 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
55 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
56 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
57 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
58 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
59 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
60 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
61 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
62 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
63 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
64 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
65 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
66 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
67 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
68 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
69 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
70 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
71 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
72 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
73 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
74 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
75 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
76 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
77 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
78 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
79 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
80 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
81 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
82 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
83 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
84 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
85 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
86 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
87 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
88 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
89 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
90 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
91 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
92 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
93 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
94 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
95 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
96 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
97 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
98 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
99 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
100 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
101 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
102 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
103 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
104 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
105 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
106 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
107 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
108 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
109 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る
110 回	生体実習	2人で作業をし安全に終わることが出来る

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 グルーミング学Ⅱ (犬種総論Ⅱ)		教員名 小松 里菜	
科目時間数： 20 時間		授業の種類： <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： <u>必修</u> ・選択	配当学年： 2	開講時期： <u>前期</u> ・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 人気犬種1～20位の適性飼育を理解する。 一般飼い主に適切なアドバイスができる。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 人気犬種1～20位の飼育上の注意点、行動特性、お手入れ方法、しつけ方法、病気について理解する。 【授業における達成課題】 筆記試験で正答率60%以上。			
	使用教材	出版社	
学生	プリント等		
【教員担当の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無 【内 容】 ペットショップでトリマーとしての勤務経験がある。			
【評価方法とその内容】 筆記試験において正答率60%以上、授業出席率80%以上。			
【必要な予習等の内容】 配布資料（プリント等）の復習をして、次回の授業に参加するように指示をして実行する。			

科目名 グルーミング学Ⅱ（犬種総論Ⅱ）		科目時間総数 20 時間	教員名 小松 里菜
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	1 年次の復習	J K C 人気犬種の犬種名を答える。昨年度の犬畜登録数を確認し、人気犬種を理解する	
2 回	1 年次の復習	J K C 第 1 ～ 1 0 グループについて、どんな特性を持った集まりかを理解する。	
3 回	犬の管理	モーターパターンを理解し、犬の管理について知識を増やす	
4 回	人気犬種について	人気犬種 1 ～ 2 位の飼育方法、行動特性、お手入れの方法、しつけ方法、病気を理解する	
5 回	人気犬種について	人気犬種 3 ～ 4 位の飼育方法、行動特性、お手入れの方法、しつけ方法、病気を理解する	
6 回	人気犬種について	人気犬種 5 位の飼育方法、行動特性、お手入れの方法、しつけ方法、病気を理解する。1 ～ 5 位について復習する。	
7 回	人気犬種について	人気犬種 6 ～ 7 位の飼育方法、行動特性、お手入れの方法、しつけ方法、病気を理解する	
8 回	人気犬種について	人気犬種 8 ～ 9 位の飼育方法、行動特性、お手入れの方法、しつけ方法、病気を理解する	
9 回	人気犬種について	人気犬種 1 0 位の飼育方法、行動特性、お手入れの方法、しつけ方法、病気を理解する	
10 回	復習	人気犬種 1 ～ 1 0 位について、復習する。	
11 回	人気犬種について	試験解説 人気犬種 1 1 位の飼育方法について理解する。	
12 回	人気犬種について	人気犬種 1 2 ～ 1 3 位の飼育方法、行動特性、お手入れの方法、しつけ方法、病気を理解する	
13 回	人気犬種について	人気犬種 1 4 ～ 1 5 位の飼育方法、行動特性、お手入れの方法、しつけ方法、病気を理解する。	
14 回	復習	人気犬種 1 ～ 1 5 位まで復習する。	
15 回	人気犬種について	人気犬種 1 6 ～ 1 7 位の飼育方法、行動特性、お手入れの方法、しつけ方法、病気を理解する	
16 回	人気犬種について	人気犬種 1 8 ～ 1 9 位の飼育方法、行動特性、お手入れの方法、しつけ方法、病気を理解する	
17 回	人気犬種について	人気犬種 2 0 位の飼育方法、行動特性、お手入れの方法、しつけ方法、病気を理解する	
18 回	復習	人気犬種 1 ～ 1 6 位まで復習する。	
19 回	人気犬種について	犬種の毛色について、1 年生の復習と最近のはやりについて知る。	
20 回	今後について	現代の人気犬種の傾向について理解する。	

授業計画表

動物飼育		科	MCL盛岡ペットワールド専門学校		
科目名		グルーミング学Ⅱ (猫種総論Ⅱ)		教員名	高坂 恵梨香
科目時間数：		20	時間	授業の種類： ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別：		☒ 必修・選択	配当学年	2	開講時期： 前期・ ☒ 後期・集中
〔授業の目的・ねらい〕 ペットショップで扱う猫種を判別できるようになるのがねらい 〔動物飼育科ディプロマポリシーとの関連〕 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 3. 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる 4. 社会で活躍と働くという心構えができている 〔授業全体の内容の概要〕 猫の種類と飼育方法などを理解する 〔授業における達成課題〕 筆記試験において正答率60%以上					
	使用教材		出版社		
学生用	猫の教科書		緑書房		
【教員担当の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無 【内容】 動物病院にて動物看護師として勤務経験がある 【評価とその内容】 筆記試験において正答率80%以上、授業出席率90%以上 【必要な予習などの内容】 次回の授業に向けて、教科書に目を通し予習することを指示し実行する					

科目名 グルーミング学Ⅱ（猫種総論Ⅱ）		科目時間総数 20 時間	教員名 高坂 恵梨香
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	オリエンテーション	授業の目的、到達目標を説明する。	
2 回	復習	猫種総論Ⅰの内容を振り返り、復習をする。	
3 回	ソマリ	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
4 回	ソマリ	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
5 回	バーマン	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
6 回	バーマン	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
7 回	ターキッシュ・バン	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
8 回	ターキッシュ・バン	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
9 回	ラガマフィン	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
10 回	ラガマフィン	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
11 回	ペルシャ	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
12 回	ペルシャ	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
13 回	復習	今までの内容を振り返り、復習する。	
14 回	サイアミーズ	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
15 回	サイアミーズ	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
16 回	オリエンタル	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
17 回	オリエンタル	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
18 回	エジプシャンマウ	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
19 回	エジプシャンマウ	発祥年代・原産国・祖先・体重・体型・毛質・毛色・目色・特徴を理解する。	
20 回	まとめ	猫種総論Ⅱの確認テストを行い理解を深める。	

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 しつけトレーニング学Ⅱ (行動学Ⅱ)		教員名 佐藤 丈嗣	
科目時間数: 30 時間		授業の種類: 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別: 必修・選択	配当学年: 2	開講時期: 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 イヌを安全に管理する技術と知識を身につける 犬の学習理論を理解し、普段の生活に活かす。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 1. 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 2. 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 3. 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる 4. 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 イヌのコントロール、観察およびボディランゲージを読みとり、現状を把握する。犬がトラブルに巻き込まれないための管理。犬の学習理論を理解し、普段の生活に取り入れる。 【授業における達成課題】 筆記試験の正答率が60%以上 マナーハンドラーテストおよび学校認定トレーナーライセンス合格			
	使用教材	出版社	
学生用	プリント等		
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 ペットショップにて、ドッグトレーナーとして勤務経験がある			
【評価方法とその内容】 筆記試験で正答率60%以上、授業出席率80%以上。			
【必要な予習等の内容】 今回の授業に向けて、プリント等を活用して復習をすることを指示し実行する。			

科目名 しつけトレーニング学Ⅱ（行動学Ⅱ）		科目時間総数 30 時間	教員名 佐藤 丈嗣
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	行動形成	誘導法 誘導法を使って、オスワリフセタテを形成する	
2 回	行動形成	誘導法 誘導法を使って、オスワリフセタテを形成する	
3 回	行動形成	誘導法 誘導法を使って、ヒールポジションを形成する	
4 回	行動形成	安全に犬を管理する方法を説明する	
5 回	行動形成	分かりやすい説明 デモンストレーションができる	
6 回	行動形成	般化 弁別 馴化 を説明することができる	
7 回	行動形成	犬の行動に合わせて合図を出すことができる	
8 回	行動形成	クリッカーを使って、オスワリを教えることができる	
9 回	行動形成	クリッカーを使って、オスワリを教えることができる	
10 回	行動形成	クリッカーを使って、オスワリを教えることができる	
11 回	行動形成	ヒールポジションを形成することができる	
12 回	行動形成	ヒールポジションを形成することができる	
13 回	行動形成	ハンドターゲットを犬に教えることができる	
14 回	行動形成	クリッカーを使い、アテンションを取るすることができる	
15 回	行動形成	クリッカーを使い、アテンションを取るすることができる	
16 回	行動形成	犬に許可を与えることを教える	
17 回	行動形成	強化と強化子について説明し、適切に使用することができる	
18 回	行動形成	オスワリマテ、ヒールを形成できる	
19 回	行動形成	オスワリマテ、ヒールを形成できる	
20 回	行動形成	アテンション オスワリマテを形成できる	
21 回	行動形成	アテンション オスワリマテを形成できる	
22 回	行動形成	飛びつき防止のトレーニングができる	
23 回	行動形成	ヒーリングを形成できる	
24 回	行動形成	ヒーリングを形成できる	
25 回	行動形成	お手入れトレーニングができる	
26 回	行動形成	お手入れトレーニングができる	
27 回	行動形成	お手入れトレーニングができる	
28 回	行動形成	お手入れトレーニングができる	
29 回	行動形成	報酬を抜くトレーニングができる	
30 回	行動形成	報酬を抜くトレーニングができる	

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 しつけトレーニング学Ⅱ (犬の行動学Ⅱ)		教員名 三上 祐太	
科目時間数： 30 時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修・選択	担当学年： 2	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 イヌの問題行動の改善の対処と問題行動の予防の知識を身に付ける。 飼い主の問題行動の悩みについて、悪化させないアドバイスが出来るようになる。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 1 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 2 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 3 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる 4. 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 犬の問題行動の種類、問題行動の改善の流れ、問題行動の改善方法、問題行動の予防 【授業における達成課題】 筆記試験で正答率60%以上。			
	使用教材	出版社	
学生用	プリント等		
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】			
【評価方法とその内容】 筆記試験で正答率60%以上、授業出席率80%以上。			
【必要な予習等の内容】 配布資料（プリント等）の復習をして、次回の授業に参加するように指示をして実行する。			

科目名 しつけトレーニング学Ⅱ（犬の行動学Ⅱ）		科目時間総数 30 時間	教員名 三上 祐太
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	問題行動について	ペットの問題行動とは何かを学ぶ。ペットの問題行動に対処ができない場合のその後を知る。	
2 回	問題行動について	問題行動の種類を2種類理解し、分別することができる。	
3 回	問題行動について	問題行動が起きる原因を理解する。	
4 回	問題行動について	問題行動の改善の流れを理解する。	
5 回	問題行動について	犬の適切な飼育方法について復習をする。	
6 回	問題行動について	犬の適切な行動管理について復習をする。	
7 回	問題行動について	犬の社会化期を復習する。社会化トレーニングで得られる効果を学ぶ。	
8 回	問題行動について	犬の食事に問題がある場合に起る問題行動について学ぶ。	
9 回	問題行動について	犬の運動に問題がある場合に起る問題行動について学ぶ。	
10 回	問題行動について	犬の環境に問題がある場合に起る問題行動について学ぶ。	
11 回	問題行動について	犬の社会的な関わりに問題がある場合に起る問題行動について学ぶ。	
12 回	問題行動について	犬の性的欲求に問題がある場合に起る問題行動について学ぶ。	
13 回	問題行動について	犬の行動管理と犬の行動形成の違いを知る。	
14 回	問題行動について	犬の吠えに関する対処の仕方を学ぶ。	
15 回	問題行動について	犬の噛みつきに関する対処の仕方を学ぶ。	
16 回	問題行動について	他人や他犬を怖がることに関する対処の仕方を学ぶ。	
17 回	問題行動について	トイレの失敗に関する対処の仕方を学ぶ。	
18 回	問題行動について	留守番に関する対処の仕方を学ぶ。	
19 回	問題行動について	拾い食いに関する対処の仕方を学ぶ。	
20 回	問題行動について	犬の適正飼育について復習する	
21 回	問題行動について	犬の適正飼育について復習する	
22 回	飼い主対応	犬の飼い主への相談について対応する力を身に付ける	
23 回	飼い主対応	犬の飼い主への相談について対応する力を身に付ける	
24 回	飼い主対応	犬の飼い主への相談について対応する力を身に付ける	
25 回	飼い主対応	犬の飼い主への相談について対応する力を身に付ける	
26 回	飼い主対応	犬の飼い主への相談について対応する力を身に付ける	
27 回	飼い主対応	犬の飼い主への相談について対応する力を身に付ける	
28 回	飼い主対応	犬の飼い主への相談について対応する力を身に付ける	
29 回	飼い主対応	犬の飼い主への相談について対応する力を身に付ける	
30 回	飼い主対応	犬の飼い主への相談について対応する力を身に付ける	

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 動物管理実践学 (ペットショップ実践学Ⅱ)		教員名 平元 尚人	
科目時間数： 80 時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別： 必修・選択	配当学年： 1年	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 ペットショップ店員における、ビジネスマナーや法令、流通について学び、働くことへの基本的な理解を深める。実習も行い、情報の発信ができる人材を目標とする 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができています 【授業全体の内容の概要】 動物を販売する際の書類や、決済方法、電話応対、接客マナー、仕事の流れ等、一連のペットショップで体験する仕事や、トラブル・クレームへの対処方法を学ぶ。 また、イベント企画のプレゼンや、卒業研究発表を通じ、物事を論理的に考え言葉で伝えていく力を養っていく。 【授業における達成課題】 口頭におけるトラブル・クレームへの対処ができるか 飼育動物の魅力を伝えることができるか 物事を論理的に考え、科学的かつ客観的に伝えることができるか ライセンス試験においてお客様の問い合わせに対応できる。			
	使用教材	出版社	
学生用			
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 ペットショップで店長として勤務経験がある			
【評価方法とその内容】 アニマルアドバイザーライセンス試験による実技評価、卒業研究発表			
【必要な予習等の内容】 ビジネスマナー文書の読み込み及び書き留め			

科目名 ペットショップ実践学Ⅱ		科目時間総数 80 時間	教員名 平元 尚人
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	オリエンテーション	授業の目的を理解し、最終的に何が身についていけばよいかを具体的にイメージする	
2 回	ペットショップとは	ペットショップのしくみについて学び、理解する。	
3 回	コミュニケーションの大切さを理解する	あいさつや言葉遣いの重要性を理解し、良好なコミュニケーションのためにとるべき行動を説明することができる（店員同士）	
4 回	コミュニケーションの大切さを理解する	あいさつや言葉遣いの重要性を理解し、良好なコミュニケーションのためにとるべき行動を説明することができる（お客様）	
5 回	コミュニケーションの大切さを理解する	あいさつや言葉遣いの重要性を理解し、良好なコミュニケーションのためにとるべき行動を説明することができる（お客様）	
6 回	電話応対について	電話応対の際に行う確認事項を書き出すことができる	
7 回	電話応対について	電話応対の際に行う確認事項を実際にお客様から聞き出すことができる	
8 回	電話応対について	電話応対の際に行う確認事項を実際にお客様から聞き出すことができる	
9 回	動物販売時説明書について	動物販売時説明書の確認事項を書き出すことができる	
10 回	動物販売時説明書について	動物販売時説明書の確認事項を説明することができる	
11 回	動物販売時説明書について	動物販売時説明書の確認事項を説明することができる	
12 回	PSでのトラブル・クレームについて	PS内でのトラブル・クレームについて学び、問題を起こさないためにはどのようにすればよいのか答えることができる	
13 回	PSでのトラブル・クレームについて	PS内でのトラブル・クレームについて学び、問題を起こさないためにはどのようにすればよいのか答えることができる	
14 回	PSでのトラブル・クレームについて	PS内でのトラブル・クレームについて学び、問題を起こさないためにはどのようにすればよいのか答えることができる	
15 回	アニマルカフェでのトラブル・クレームについて	アニマルカフェ内でのトラブル・クレームについて学び、問題を起こさないためにはどのようにすればよいのか答えることができる	
16 回	アニマルカフェでのトラブル・クレームについて	アニマルカフェ内でのトラブル・クレームについて学び、問題を起こさないためにはどのようにすればよいのか答えることができる	
17 回	アニマルカフェでのトラブル・クレームについて	アニマルカフェ内でのトラブル・クレームについて学び、問題を起こさないためにはどのようにすればよいのか答えることができる	
18 回	学校動物を紹介する	学校動物を新入生に魅力的に伝える方法を考え、実施できる。	
19 回	学校動物を紹介する	学校動物を新入生に魅力的に伝える方法を考え、実施できる。	
20 回	研究課題を考える	興味ある分野の研究課題を検討し何を研究するか決めることができる	
21 回	研究課題を考える	興味ある分野の研究課題を検討し何を研究するか決めることができる	
22 回	研究課題を考える	興味ある分野の研究課題を検討し何を研究するか決めることができる	
23 回	研究課題を考える	興味ある分野の研究課題を検討し何を研究するか決めることができる	
24 回	研究の計画を立てる	興味ある分野の研究課題を計画し、実施するためには何が必要か検討できる	
25 回	研究の計画を立てる	興味ある分野の研究課題を計画し、実施するためには何が必要か検討できる	
26 回	イベントに出展する	企画を考え、論理的にプレゼンで発表できる	
27 回	イベントに出展する	企画を考え、論理的にプレゼンで発表できる	
28 回	イベントに出展する	企画を考え、論理的にプレゼンで発表できる	
29 回	イベントに出展する	企画を考え、論理的にプレゼンで発表できる	
30 回	イベントに出展する	企画を考え、論理的にプレゼンで発表できる	
31 回	イベントに出展する	企画を考え、論理的にプレゼンで発表できる	

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
32 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、企業等と連携できる
33 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、企業等と連携できる
34 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、企業等と連携できる
35 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、企業等と連携できる
36 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、企業等と連携できる
37 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、企業等と連携できる
38 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、実験を実施できる
39 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、実験を実施できる
40 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、実験を実施できる
41 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、実験を実施できる
42 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、実験を実施できる
43 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、実験を実施できる
44 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、実験を実施できる
45 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、実験を実施できる
46 回	イベントに出展する	企画を実行し、お客様対応を実践できる
47 回	イベントに出展する	企画を実行し、お客様対応を実践できる
48 回	イベントに出展する	企画を実行し、お客様対応を実践できる
49 回	イベントに出展する	企画を実行し、お客様対応を実践できる
50 回	イベントに出展する	企画を実行し、お客様対応を実践できる
51 回	イベントに出展する	企画を実行し、お客様対応を実践できる
52 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、実験を検証することができる
53 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、実験を検証することができる
54 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、実験を検証することができる
55 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、実験を検証することができる
56 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、実験を検証することができる
57 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、実験を検証することができる
58 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を計画し、実験を検証することができる
59 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
60 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
61 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
62 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
63 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
64 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
65 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
66 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
67 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
68 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
69 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
70 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
71 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
72 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
73 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
74 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
75 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
76 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
77 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
78 回	研究の計画を実施する	興味ある分野の研究課題を検証し、発表資料を作成できる
79 回	卒業研究発表	卒業研究を実施して、発表資料を基に発表できる
80 回	卒業研究発表	卒業研究を実施して、発表資料を基に発表できる

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 動物管理実践学 (ペットフード学)		教員名 小松 里菜 平元 尚人	
科目時間数： 26 時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修・選択	配当学年： 2	開講時期： 前期 ・ 後期 ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 アレルギーや成分について学び、様々なペットフードからその子にあった種類のフードを選ぶことができる。 ペットカフェメニューの考案や制作を行い、実際に販売できる商品を作ることができる。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 多くの情報の中から個体に合った知識を取捨選択し、安心と安全について学ぶ。 一般の方々もたくさんの情報を得られる中で、どの情報がその個体に合っているのか、間違っているのかを考え、伝えることができる。 【授業における達成課題】 筆記試験の正答率 60%以上。 ペットフードマナー検定の結果			
	使用教材	出版社	
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 ペットショップでトリマーの実務経験がある。 ペットショップで店長の実務経験がある。			
【評価方法とその内容】 筆記試験での正答が 60%以上、授業出席率 80%以上			
【必要な予習等の内容】 次回の授業内容について、プリントを活用して予習をすること指示して実行する。			

科目名		科目時間総数	教員名
ペットフード学		26	小松 里菜平元 尚人
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1回	授業目的	授業の目的を理解する	
2回	フードの種類	フードの種類について学ぶ	
3回	フードの成分	成分が使用されている理由を学び、犬種ごとに必要な栄養について理解する	
4回	成分の目的	成分が使用されている理由を学び、犬種ごとに必要な栄養について理解する	
5回	食品中の危険因子	法律・成分規格について学び、添加物や無添加について学ぶ	
6回	愛玩動物用飼料の確保に関する法律	法律・成分規格について学び、添加物や無添加について学ぶ	
7回	おやつの種類	おやつの成分と種類について学ぶ	
8回	おやつの成分について	おやつの成分と種類について学ぶ	
9回	まとめテスト	実際にあったQ&Aに基づき、グループディスカッションを行い、理解を深める	
10回	まとめテスト	実際にあったQ&Aに基づき、グループディスカッションを行い、理解を深める	
11回	食品衛生責任者講習	食品衛生責任者講習を受講する	
12回	食品衛生責任者講習	食品衛生責任者講習を受講する	
13回	カフェメニューの作成	カフェメニューの考案 安全性について	
14回	カフェメニューの作成	カフェメニューの考案 安全性について	
15回	メニューの作成	実際に作って学校動物に実食させる	
16回	メニューの作成	実際に作って学校動物に実食させる	
17回	メニューの作成	実際に作って学校動物に実食させる	
18回	メニューの作成	実際に作って学校動物に実食させる	
19回	ラベル作成	ペットフード基準法に基づき、ラベルの制作を行う	
20回	ラベル作成	ペットフード基準法に基づき、ラベルの制作を行う	
21回	サプリメントについて	サプリメントの効果と使用方法について学ぶ	
22回	サプリメントについて	サプリメントの効果と使用方法について学ぶ	
23回	犬・猫以外の動物の栄養	小動物の栄養と特徴を知る	
24回	犬・猫以外の動物の栄養	小動物の栄養と特徴を知る	
25回	テスト解説	テスト解説	
26回	テスト解説	テスト解説	

授業計画表

動物飼育 科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 動物管理実践学Ⅱ (アニマルケア実習学Ⅱ)		教員名 小松 里菜/平元 尚人	
科目時間数： 48 時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： 必修・選択	配当学年： 2	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 実際の動物を使用し、保定・ケア・整備・管理を行うことで、力加減や骨格、手順を身に付けていく。また、直接管理することで生き物に対する責任感を身につけさせ、日々の手入れを習慣化させる。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業における達成課題】 学校動物の健康管理ができている。衛生的に保っている。			
	使用教材	出版社	
学生用	ペットの飼養管理Q&A	公益社団法人 日本愛玩動物協会	
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 ペットショップにより販売員（動物取扱責任者）として勤務経験がある。 ペットショップによりトリマーとして勤務経験がある。			
【評価方法とその内容】 実技試験、ライセンス試験を実施し評価する。 授業出席率80%以上。			
【必要な予習等の内容】 日々の管理手順の確認、及び作業の引継ぎを指示し実行する。			

科目名 ペットショップ実践学Ⅱ（小型動物飼育実習学）		科目時間総数 48 時間	教員名 平元 尚人・小松 里菜
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	オリエンテーション	授業の目的を理解し、最終的に何が身についていけばよいかを具体的にイメージする	
2 回	ねこなどの飼育の手順を確認する	ねこなどの保定、耳掃除を行うことができる	
3 回	ねこなどの飼育の手順を確認する	ねこなどの保定、耳掃除を行うことができる	
4 回	ねこなどの飼育の手順を確認する	ねこなどの保定、耳掃除を行うことができる	
5 回	ねこなどの飼育の手順を確認する	ねこなどの保定、耳掃除を行うことができる	
6 回	ねこなどの飼育の手順を確認する	ねこなどの保定、爪切りを行うことができる	
7 回	ねこなどの飼育の手順を確認する	ねこなどの保定、爪切りを行うことができる	
8 回	ねこなどの飼育の手順を確認する	ねこなどの保定、爪切りを行うことができる	
9 回	ねこなどの飼育の手順を確認する	ねこなどの保定、爪切りを行うことができる	
10 回	ねこなどの飼育の手順を確認する	ねこなどの飼育管理を理解し、手入れを一通り行うことができる	
11 回	ねこなどの飼育の手順を確認する	ねこなどの飼育管理を理解し、手入れを一通り行うことができる	
12 回	ねこなどの飼育の手順を確認する	ねこなどの飼育管理を理解し、手入れを一通り行うことができる	
13 回	ねこなどの飼育の手順を確認する	ねこなどの飼育管理を理解し、手入れを一通り行うことができる	
14 回	フェレットなどの日常管理について	フェレットなどの保定、耳掃除を行うことができる	
15 回	フェレットなどの日常管理について	フェレットなどの保定、耳掃除を行うことができる	
16 回	フェレットなどの日常管理について	フェレットなどの保定、耳掃除を行うことができる	
17 回	フェレットなどの日常管理について	フェレットなどの保定、耳掃除を行うことができる	
18 回	フェレットなどの日常管理について	フェレットなどの保定、爪切りを行うことができる	
19 回	フェレットなどの日常管理について	フェレットなどの保定、爪切りを行うことができる	
20 回	フェレットなどの日常管理について	フェレットなどの保定、爪切りを行うことができる	
21 回	フェレットなどの日常管理について	フェレットなどの保定、爪切りを行うことができる	
22 回	フェレットなどの日常管理について	フェレットなどの保定、爪切りを行うことができる	
23 回	フェレットなどの日常管理について	フェレットなどの飼育管理を理解し、手入れを一通り行うことができる	
24 回	フェレットなどの日常管理について	フェレットなどの飼育管理を理解し、手入れを一通り行うことができる	
25 回	フェレットなどの日常管理について	フェレットなどの飼育管理を理解し、手入れを一通り行うことができる	
26 回	フェレットなどの日常管理について	フェレットなどの飼育管理を理解し、手入れを一通り行うことができる	
27 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験にむけて接客、電話応対ができる。	
28 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験にむけて接客、電話応対ができる。	
29 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験にむけて接客、電話応対ができる。	
30 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験にむけて接客、電話応対ができる。	

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
31 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験にむけて接客、電話応対ができる。
32 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験にむけて接客、電話応対ができる。
33 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験にむけて接客、電話応対ができる。
34 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験にむけて接客、電話応対ができる。
35 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験にむけて接客、電話応対ができる。
36 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験にむけて接客、電話応対ができる。
37 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験にむけて接客、電話応対ができる。
38 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験にむけて接客、電話応対ができる。
39 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験にむけて接客、電話応対ができる。
40 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験にむけて接客、電話応対ができる。
41 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験にむけて接客、電話応対ができる。
42 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験を行う
43 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験を行う
44 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験を行う
45 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験を行う
46 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験を行う
47 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験を行う
48 回	まとめ	各種動物の飼育についてライセンス試験を行う

授業計画表

動物飼育科

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 ペットショップ実践学 (産業動物福祉学)		教員名 平元 尚人	
科目時間数: 26 時間		授業の種類: 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別: 必修・選択	配当学年: 2	開講時期: 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 産業動物の種類と正しい飼育管理方法や動物福祉を学び、将来お客様に間違いのないよう説明できるようになることを目的とする。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 産業動物・猛禽類の種類ごとの特徴、分類を詳しく学ぶ。また、種類ごとの飼育管理についても、教員の実経験も踏まえながら、詳しく講義をして都度振返りながら進める。 【授業における達成課題】 筆記試験の正答率 60%以上。			
	使用教材	出版社	
学生用	プリント等		
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 ペットショップで動物取扱責任者としての勤務経験がある。畜産研究所で家畜人工授精師としての勤務経験がある。 【評価方法とその内容】 筆記試験での正答が 60%以上、授業出席率 80%以上 【必要な予習等の内容】 配布資料（プリント等）の復習をして、次回の授業に参加すること指示して実行する。			

科目名 産業動物福祉学		科目時間総数 26	時間	教員名 平元 尚人
時間数		主な学習内容と到達目標		
1回	オリエンテーション	授業の目的を理解し、卒業時に何が身についていればよいかを具体的にイメージする		
2回	産業動物について	産業動物の定義と種類、管理法や人との関りについて学び理解する。		
3回	産業動物と法律	産業動物に関わる法律（家畜伝染病予防法等）について学び、病気の予防法や管理義務などを理解する。		
4回	産業動物と法律	産業動物に関わる法律（家畜伝染病予防法等）について学び、病気の予防法や管理義務などを理解する。		
5回	家禽類	産業動物である家禽の種類と特徴について学び、その利用法を理解する。		
6回	家禽類	産業動物である家禽の種類と特徴について学び、その利用法を理解する。		
7回	野鳥と家禽	野鳥と渡り鳥についてその特徴を学習し、理解する。		
8回	鳥インフルエンザ	鳥インフルエンザについて学び、理解する。		
9回	鳥インフルエンザ	鳥インフルエンザについて学び、理解する。		
10回	猛禽類	ふくろう以外の猛禽類の種類と特徴について学び、理解する。		
11回	猛禽類	ふくろう以外の猛禽類の種類と特徴について学び、理解する。		
12回	外来種、絶滅危惧種	鳥類の外来種や絶滅危惧種について学び、その問題の要因を理解する。		
13回	外来種、絶滅危惧種	鳥類の外来種や絶滅危惧種について学び、その問題の要因を理解する。		
14回	ふくろうの種類	ふくろうの品種とその特徴について学び、理解する。		
15回	ふくろうの飼い方①	ふくろうのエサや飼育管理方法について学び、理解する。		
16回	ふくろうの飼い方①	ふくろうのエサや飼育管理方法について学び、理解する。		
17回	ふくろうの飼い方②	ふくろうの飼育管理に必要な道具について学び、理解する。		
18回	ふくろうの飼い方③	ふくろうの爪切りや病気について学び、理解する。		
19回	ふくろうの飼い方③	ふくろうの爪切りや病気について学び、理解する。		
20回	ふくろうの飼い方Q&A	Q&Aを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。		
21回	ふくろうの飼い方Q&A	Q&Aを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。		
22回	今までの振り返り	小テストを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。		
23回	鳥の病気（愛玩1級より）	愛玩1級のテキストに沿って鳥類について学び、愛玩1級の知識の取得を目指す。		
24回	鳥の販売Q&A	ペット飼養相談の実例集の鳥類のQ&Aについて学び、実際に接客に生かせるように練習する。		
25回	鳥の販売Q&A	ペット飼養相談の実例集の鳥類のQ&Aについて学び、実際に接客に生かせるように練習する。		
26回	産業動物、猛禽類まとめ	確認テストを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。		

授業計画表

動物飼育科

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 ペットショップ実践学 (産業動物・猛禽類)		教員名 平元 尚人	
科目時間数：26 時間		授業の種類：講義・演習・実習	
必修・選択 の別：必修・選択	配当学年：2	開講時期：前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 産業動物・猛禽類の種類と正しい飼育管理方法を学び、将来お客様に間違いのないよう説明できるようにすることを目的とする。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 産野生動物の種類ごとの特徴、法律を詳しく学ぶ。また、種類ごとの飼育管理についても、教員の実経験も踏まえながら、詳しく講義をして都度振り返りながら進める。 【授業における達成課題】 筆記試験の正答率60%以上。			
	使用教材	出版社	
学生用	プリント等		
【教員担当の実務経験の有無】有・無 【内 容】 ペットショップで動物取扱責任者としての勤務経験がある。畜産研究所で家畜人工授精師としての勤務経験がある。盛岡市の鳥獣被害対策実施隊での経験がある。			
【評価方法とその内容】 筆記試験での正答が60%以上、授業出席率80%以上			
【必要な予習等の内容】 配布資料（プリント等）の復習をして、次回の授業に参加すること指示して実行する。			

科目名 野生動物学		科目時間総数 26 時間	教員名 平元 尚人
時間数		主な学習内容と到達目標	
1 回	オリエンテーション	授業の目的を理解し、卒業時に何が身についていけばよいかを具体的にイメージする	
2 回	野生動物について	野生動物の定義と種類、管理法や人との関りについて学び理解する。	
3 回	野生動物と法律	野生動物や管理義務などを理解する。	
4 回	野生動物と法律	野生動物に関わる法律（家畜伝染病予防法等）について学び、病気の予防法や管理義務などを理解する。	
5 回	野生動物と法律	野生動物である鳥獣の種類と特徴について学び、その利用法を理解する。	
6 回	野生動物と法律	野生動物である鳥獣の種類と特徴について学び、その利用法を理解する。	
7 回	野生動物と法律	野生動物である鳥獣の種類と特徴について学び、その利用法を理解する。	
8 回	野生動物と法律	野生動物である鳥獣の種類と特徴について学び、その利用法を理解する。	
9 回	野鳥と家禽	野鳥と渡り鳥についてその特徴を学習し、理解する。	
10 回	鳥インフルエンザ	鳥インフルエンザについて学び、理解する。	
11 回	鳥インフルエンザ	鳥インフルエンザについて学び、理解する。	
12 回	猛禽類	ふくろう以外の猛禽類の種類と特徴について学び、理解する。	
13 回	猛禽類	ふくろう以外の猛禽類の種類と特徴について学び、理解する。	
14 回	外来種、絶滅危惧種	鳥類の外来種や絶滅危惧種について学び、その問題の要因を理解する。	
15 回	外来種、絶滅危惧種	鳥類の外来種や絶滅危惧種について学び、その問題の要因を理解する。	
16 回	ふくろうの種類	ふくろうの品種とその特徴について学び、理解する。	
17 回	ふくろうの飼い方①	ふくろうのエサや飼育管理方法について学び、理解する。	
18 回	ふくろうの飼い方Q&A	Q&Aを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。	
19 回	ふくろうの飼い方Q&A	Q&Aを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。	
20 回	ふくろうの飼い方Q&A	Q&Aを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。	
21 回	ふくろうの飼い方Q&A	Q&Aを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。	
22 回	今までの振り返り	小テストを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。	
23 回	鳥の病気（愛玩1級より）	愛玩1級のテキストに沿って鳥類について学び、愛玩1級の知識の取得を目指す。	
24 回	鳥の販売Q&A	ペット飼養相談の実例集の鳥類のQ&Aについて学び、実際に接客に生かせるように練習する。	
25 回	鳥の販売Q&A	ペット飼養相談の実例集の鳥類のQ&Aについて学び、実際に接客に生かせるように練習する。	
26 回	産業動物、猛禽類まとめ	確認テストを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。	

授業計画表

動物飼育	科	MCL盛岡ペットワールド専門学校	
科目名	動物管理実践学 (アクアリウム実習学Ⅱ)	教員名	平元 尚人
科目時間数：	48 時間	授業の種類：	講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別：	必修・選択	配当学年：	2 開講時期： 前期 ・ 後期 ・ 集中
【授業の目的・ねらい】 基本的な観賞魚の飼育について学び、魚種の特徴や食性、必要な飼育器具等について、実際に管理することができ、お客様に適切に説明できるようになる。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 熱帯魚、海水魚、金魚、メダカ、川魚及び水生生物について、座学を通して正しい知識を身につけ、実習を通して実際の水槽の飼育管理方法を実践し、将来お客様に対して適切な対応をできるようにする。 【授業における達成課題】 筆記試験の正答率 60 % 以上。			
	使用教材	出版社	
学生用	観賞魚飼育管理士教本	日本観賞魚振興事業協同組合	
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 ペットショップで動物取扱責任者、アクア売り場担当者としての勤務経験がある。ProjectWILDエデュケーター資格所持。			
【評価方法とその内容】 筆記試験での正答が 60 % 以上、授業出席率 80 % 以上			
【必要な予習等の内容】 次回の授業内容について、教科書等を活用して予習をすること指示して実行する。			

科目名		科目時間総数	教員名
アクアリウム実習学Ⅱ		48	平元 尚人
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1回	オリエンテーション	授業の目的を理解し、最終的に何が身についていけばよいかを具体的にイメージする	
2回	体験授業 魚を作ろう	体験授業（ProjectWILD）でオリジナルの魚をつくり、魚類に興味を持つとともに環境に対する適応を学び、理解する。	
3回	水替え方法・海水の作り方	水替えの意味と詳しい行い方 温度合わせ PHショックについて理解する。	
4回	生物濾過、化学濾過	生物濾過と化学濾過について学び、理解する。	
5回	バクテリアの働き	バクテリアの働きについて理解をし、水替え等を実践する。	
6回	ろ過装置①	ろ過装置について種類や構造について学び、理解をする。	
7回	ろ過装置②	ろ過装置について種類や構造について学び、理解した内容を実践する。	
8回	ろ過装置③	ろ過装置について種類や構造について学び、理解した内容を実践する。	
9回	今までの振り返り	豆テストを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。	
10回	ヒーターとSH規格	ヒーターやサーモスタッドの扱い方と機能を学び、SH規格を理解する。	
11回	外来種問題を知ろう	水生生物の外来種問題について学び、理解する。	
12回	外来種問題を知ろう	水生生物の外来種問題について学び、問題を意識をしてメンテナンスを実践する。	
13回	水生生物河川調査	北上川の水生生物の河川調査を岩手県環境学習センターと協力して行い、盛岡の河川環境について体験をし、河川生物と環境問題を理解する。	
14回	水生生物河川調査	北上川の水生生物の河川調査を岩手県環境学習センターと協力して行い、盛岡の河川環境について体験をし、河川生物と環境問題を理解する。	
15回	底砂の種類と特性	水槽用の底砂の種類と特徴について学び、理解する。	
16回	底砂の種類と特性	水槽用の底砂の種類と特徴について学び、メンテナンスを実践する。	
17回	照明について	照明やコケの発生について学び、理解をする。	
18回	照明について	照明やコケの発生について学び、水草水槽のメンテナンスを実践する。	
19回	水草水槽の作り方について	水草水槽の作り方について学び、理解する。	
20回	水草水槽の作り方について	水草水槽の作り方について学び、メンテナンスを実践する。	
21回	小型水槽の設置	小型水槽の設置の仕方について学び、理解する。	
22回	小型水槽の設置	小型水槽の設置の仕方について学んだことをもとに、実際に小型水槽を設置する。	
23回	今までの振り返り	豆テストを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。	
24回	熱帯魚の種類	熱帯魚の種類の概要について学び、理解をする。	
25回	熱帯魚の種類	熱帯魚の種類の概要について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。	
26回	クマノミの仲間①	海水魚の代表的なクマノミ、スズメダイの仲間について学び、理解する。	
27回	クマノミの仲間②	海水魚の代表的なクマノミ、スズメダイの仲間学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。	
28回	クマノミの仲間③	海水魚の代表的なクマノミ、スズメダイの仲間について学び、理解する。	
29回	クマノミの仲間④	海水魚の代表的なクマノミ、スズメダイの仲間学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。	
30回	チョウチョウウオの仲間	海水魚のチョウチョウウオの仲間について学び、理解する。	

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
31 回	チョウチョウウオの仲間	海水魚のチョウチョウウオの仲間について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
32 回	その他の海水魚	その他の海水魚の仲間について学び、理解する。
33 回	その他の海水魚	その他の海水魚の仲間について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
34 回	シクリッド、アナバスの仲間	熱帯魚のシクリッド、アナバスの仲間について学び、理解する。
35 回	シクリッド、アナバスの仲間	熱帯魚のシクリッド、アナバスについて学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
36 回	ディスカスの種類と管理	熱帯魚のディスカスの仲間について学び、飼育管理方法を理解する。
37 回	ディスカスの種類と管理	熱帯魚のディスカスの仲間について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
38 回	ナマズの仲間	熱帯魚のナマズの仲間について学び、理解する。
39 回	ナマズの仲間	熱帯魚のナマズの仲間について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
40 回	メダカの仲間	熱帯魚のメダカの仲間について学び、理解する。
41 回	メダカの仲間	熱帯魚のメダカの仲間について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
42 回	メダカの仲間	熱帯魚のメダカの仲間について学び、理解する。
43 回	メダカの仲間	熱帯魚のメダカの仲間について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
44 回	今までの振り返り	今までの授業で熱帯魚について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
45 回	今までの振り返り	今までの授業で熱帯魚について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
46 回	今までの振り返り	今までの授業で熱帯魚について学んだことを参考に、水槽のメンテナンスを実践する。
47 回	今までの振り返り	豆テストを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。
48 回	アクア基礎学まとめ	確認テストを通して今までの授業を振り返り、より深く内容を理解し、お客様に対して説明できることを目指す。

授業計画表

動物飼育

学科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 動物管理実践学 (水族館概論Ⅰ)		教員名 男鹿水族館 (大野)	
科目時間数： 10 時間		授業の種類： ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修・ ☒ 選択	配当学年： 2	開講時期： 前期・後期・ ☒ 集中	
【授業の目的・ねらい】 犬・猫だけではなく、近年の動物の多様化に合わせ、動物園水族館動物や野生動物の生態・飼育方法などを学び、動物を取り扱う職業につくための基礎を身に付けていく。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業における達成課題】 口頭における各種生体の質問に対し答えることができる 筆記試験における正答率が60%以上			
	使用教材	出版社	
【教員担当の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無 【内 容】			
【評価方法とその内容】 筆記試験において正答率60%以上、授業出席率80%以上			
【必要な予習等の内容】 教科書を活用して、次回の学習範囲を指定し、分類・飼養基準・病名等のノートへの書き取りを指示して実行する			

科目名 動物管理実践学（動物園動物概論Ⅰ）		科目時間総数 90分x30 時間	教員名 男鹿水族館
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	オリエンテーション	授業の目的を理解し、最終的に何が身についていけばよいかを具体的にイメージする	
2 回	日本の水族館の歴史と所在地	日本の水族館の歴史と所在地を知り、動物園の現状を学ぶ。	
3 回	水族館動物とは	動物園動物の分類とほかの動物との違いを学び、理解する。	
4 回	輸入動物に関わる問題	ワシントン条約や家畜伝染病予防法、特定外来生物法について学び、動物園動物の輸入に関わる問題と現状について理解する。	
5 回	環境エンリッチメントについて	環境エンリッチメントについて実例を学び、動物園での取り組みを理解する。	
6 回	シロクマの飼育	シロクマの種類や特徴を学び、理解を深める。	
7 回	ペンギンの飼育	ペンギンの種類や特徴を学び、理解を深める。	
8 回	カワウソの飼育	カワウソの種類や特徴を学び、理解を深める。	
9 回	海獣類の飼育	アシカ、アザラシ、オットセイなどの種類や特徴を学び、理解を深める。	
10 回	海洋生物まとめ	筆記テストにより理解を深める	

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 動物管理実践学 (動物園動物概論)		教員名 荒井 雄大	
科目時間数 : 20 時間		授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別 :	必修・ <u>選択</u>	配当学年 :	2 開講時期 : <u>前期</u> ・ 後期 ・ 集中
【授業の目的・ねらい】 犬・猫だけではなく、近年の動物の多様化に合わせ、動物園水族館動物や野生動物の生態・飼育方法などを学び、動物を取り扱う職業につくための基礎を身に付けていく。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 各種生体の寿命・体長・飼育方法・飼養基準・給餌方法・疾患などについて学び、それらの情報を発信できる人材になれるよう、説明の仕方、接客等においても板書、教科書、資料等を用い進めていく 【授業における達成課題】 口頭における各種生体の質問に対し答えることができる 筆記試験における正答率が60%以上			
	使用教材	出版社	
【教員担当の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無 【内 容】 動物園にて飼育員、広報営業としての勤務経験がある。			
【評価方法とその内容】 筆記試験において正答率60%以上、授業出席率80%以上			
【必要な予習等の内容】 教科書を活用して、次の学習範囲を指定し、分類・飼養基準・病名等のノートへの書き取りを指示して実行する			

科目名 動物管理実践学（動物園動物概論）		科目時間総数 26 時間	教員名 荒井 雄大
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	オリエンテーション	授業の目的を理解し、最終的に何が身についていけばよいかを具体的にイメージする	
2 回	日本の動物園の歴史と所在地	日本の動物園の歴史と所在地を知り、動物園の現状を学ぶ。	
3 回	動物園動物とは	動物園動物の分類とほかの動物との違いを学び、理解する。	
4 回	輸入動物に関わる問題	ワシントン条約や家畜伝染病予防法、特定外来生物法について学び、動物園動物の輸入に関わる問題と現状について理解する。	
5 回	環境エンリッチメントについて	環境エンリッチメントについて実例を学び、動物園での取り組みを理解する。	
6 回	確認テスト	確認テストを実施し、習ったことの知識を確認し、復習することによって理解を深める。	
7 回	ゾウの飼育1	ゾウの種類や特徴を学び、理解を深める。	
8 回	ゾウの飼育2	ゾウの飼育や健康管理について学び、理解を深める。	
9 回	ゾウの飼育（確認テスト）	確認テストを実施し、習ったことの知識を確認し、復習することによって理解を深める。	
10 回	キリンの飼育1	キリンの種類や特徴を学び、理解を深める。	
11 回	キリンの飼育2	キリンの飼育や健康管理について学び、理解を深める。	
12 回	キリンの飼育（確認テスト）	確認テストを実施し、習ったことの知識を確認し、復習することによって理解を深める。	
13 回	ライオンの飼育1	ライオンの種類や特徴を学び、理解を深める。	
14 回	ライオンの飼育2	ライオンの飼育や健康管理について学び、理解を深める。	
15 回	ライオンの飼育（確認テスト）	確認テストを実施し、習ったことの知識を確認し、復習することによって理解を深める。	
16 回	日本の動物の飼育	日本の動物について知り、その種類と特徴、飼育方法について学ぶ。	
17 回	日本の食肉目	日本の食肉目について知り、その種類と特徴、飼育方法について学ぶ。	
18 回	日本の齧歯目	日本の齧歯目について知り、その種類と特徴、飼育方法について学ぶ。	
19 回	日本の爬虫類	日本の爬虫類について知り、その種類と特徴、飼育方法について学ぶ。	
20 回	動物園動物概論 I まとめ	筆記テストにより理解を深める	

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 ペットビジネス教養Ⅱ (社会人教養Ⅱ)		教員名 岩泉 美和子	
科目時間数: 20 時間		授業の種類: 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別: 必修・選択	配当学年: 2	開講時期: 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 社会で活躍するために必要な能力の向上を目的とする。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 1. 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 2. 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 3. 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる 4. 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 アサーション、伝える力、聴く力、質問力、コーチング、仕事の基本を身に付ける。 【授業における達成課題】 筆記試験での正答が60%以上。			
	使用教材	出版社	
学生	プリント等		
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 金融機関関連企業等に勤務経験がある。			
【評価方法とその内容】 筆記試験において60点以上、授業出席率90%以上。			
【必要な予習等の内容】 次回の授業に向けて、プリントを活用して復習することを指示して実行する。			

科目名 ペットビジネス教養Ⅱ（社会人教養）		科目時間総数 20 時間	教員名 岩泉 美和子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	目標設定	1年の目標設定をする	
2 回	アサーション	自分も他人も大切にしたい自己表現の考え方と方法	
3 回	伝える力	心を動かす伝え方	
4 回	聴く力	信頼関係を築く聴き方	
5 回	問いかける力	質問力を磨く	
6 回	コーチング	コーチングの基本と目標設定	
7 回	コーチング	コーチング実践 目標達成フレームワークとメタ成果	
8 回	コーチング	効果的な質問をする	
9 回	コーチング	現状改善	
10 回	コーチング	行動傾向・対人スタイル分析	
11 回	コーチング	体験学習 課題解決について	
12 回	コーチング	体験学習 合意形成について	
13 回	仕事の基本	仕事の基本的なすすめ方	
14 回	仕事の基本	社会人と学生の違い 社会人としての自覚を持つ	
15 回	仕事の基本	正しい敬語と言葉づかい	
16 回	仕事の基本	正しい電話対応	
17 回	仕事の基本	訪問から帰るまでの流れ	
18 回	仕事の基本	ビジネス文書の作成	
19 回	仕事の基本	接客教養ライセンスに向けてのペアワーク	
20 回	振り返り	接客ライセンスの振り返り	

授業計画表

動物飼育

科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 ペットビジネス教養Ⅱ (学校行事・資格)	教員名 平元 尚人	
科目時間数： 80 時間	授業の種類： (講義) ・ 演習 ・ (実習)	
必修・選択の別： (必修)・選択	配当学年： 2	開講時期： (前期)・(後期)・集中
【授業の目的・ねらい】 学校生活を実りあるものにするための考え方を学ぶ。 社会人に必要となる社会人基礎力を磨き、社会で働く心構えを身に付ける。 上級学生としての心構えを持ち、後輩の指導をする能力を身に付ける。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 ② 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 ③ 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる ④ 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 オリエンテーション、基礎学力、学校行事、国内研修、損害保険募集人資格、接客コンテスト、スポーツ大会、ボランティア活動 【授業における達成課題】 学校行事等を通じて、目標達成やその過程を経験して日常生活や就職後の活動で活躍できる。		
	使用教材	出版社
学生用	プリント等	
【教員担当の実務経験の有無】 (有) ・ 無 【内 容】 ドッグトレーナーとしての勤務経験がある。		
【評価方法とその内容】 受講姿勢と取組み成果、レポート、授業出席率80%以上。		
【必要な予習等の内容】 行事等について、事前に担当分野の内容を打ち合わせをして授業に参加することを指示して実行する。		

科目名 ペットビジネス教養Ⅱ(学校行事・資格)		科目時間総数 80	時間	教員名 平元 尚人
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標		
1回	行事	ドッグフェスティバル準備		
2回	行事	ドッグフェスティバル準備		
3回	行事	ドッグフェスティバル準備		
4回	行事	ドッグフェスティバル準備		
5回	行事	ドッグフェスティバル準備		
6回	行事	ドッグフェスティバル準備		
7回	行事	ドッグフェスティバル準備		
8回	行事	ドッグフェスティバル準備		
9回	行事	ドッグフェスティバル準備		
10回	行事	ドッグフェスティバル準備		
11回	行事	ドッグフェスティバル準備		
12回	行事	ドッグフェスティバル準備		
13回	行事	ドッグフェスティバル準備		
14回	行事	ドッグフェスティバル準備		
15回	行事	ドッグフェスティバル準備		
16回	行事	ドッグフェスティバル準備		
17回	行事	ドッグフェスティバル準備		
18回	行事	ドッグフェスティバル準備		
19回	行事	ドッグフェスティバル準備		
20回	行事	ドッグフェスティバル準備		
21回	行事	ドッグフェスティバル		
22回	行事	ドッグフェスティバル		
23回	行事	ドッグフェスティバル		
24回	行事	ドッグフェスティバル		
25回	行事	ドッグフェスティバル		
26回	行事	ドッグフェスティバル		
27回	行事	ドッグフェスティバル		
28回	行事	ドッグフェスティバル		
29回	行事	ドッグフェスティバル		
30回	行事	ドッグフェスティバル		

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
31 回	行事	ドッグフェスティバル振り返り反省
32 回	行事	スポーツ大会
33 回	行事	スポーツ大会
34 回	行事	スポーツ大会
35 回	行事	スポーツ大会
36 回	行事	スポーツ大会
37 回	行事	スポーツ大会
38 回	行事	スポーツ大会 振り返り反省
39 回	資格検定	損害保険募集人資格
40 回	資格検定	損害保険募集人資格
41 回	資格検定	損害保険募集人資格
42 回	資格検定	損害保険募集人資格
43 回	資格検定	損害保険募集人資格
44 回	資格検定	損害保険募集人資格
45 回	資格検定	損害保険募集人資格
46 回	資格検定	損害保険募集人資格
47 回	資格検定	損害保険募集人資格
48 回	資格検定	損害保険募集人資格
49 回	行事	学園祭準備
50 回	行事	学園祭準備
51 回	行事	学園祭準備
52 回	行事	学園祭準備
53 回	行事	学園祭準備
54 回	行事	学園祭
55 回	行事	学園祭
56 回	行事	学園祭
57 回	行事	学園祭
58 回	行事	学園祭
59 回	行事	学園祭
60 回	行事	学園祭 振り返り反省

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
61 回	特別授業	国内研修
62 回	特別授業	国内研修
63 回	特別授業	国内研修
64 回	特別授業	国内研修
65 回	特別授業	国内研修
66 回	特別授業	国内研修
67 回	特別授業	国内研修
68 回	特別授業	国内研修
69 回	特別授業	国内研修
70 回	特別授業	国内研修
71 回	特別授業	国内研修
72 回	特別授業	国内研修
73 回	行事	MC L スポーツ大会
74 回	行事	MC L スポーツ大会
75 回	行事	MC L スポーツ大会
76 回	行事	MC L スポーツ大会
77 回	行事	MC L スポーツ大会
78 回	行事	MC L スポーツ大会
79 回	振り返り	今までの振り返り
80 回	今後の目標	今後の目標決め

授業計画表

動物飼育科

MCL盛岡ペットワールド専門学校

科目名 インターンシップ実習Ⅱ		教員名 平元 尚人	
科目時間数： 180時間		授業の種類： 講義・演習・実習	
必修・選択の別： 必修・選択	配当学年： 2		開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 修学した知識と技術が実際の動物関連分野でどのように活かされているかをペットサロン、ペットショップ、動物病院などで体験、実習をする。 【動物飼育科ディプロマポリシーとの関連】 ① ② ③ ④ 多種多様な生物の生態を把握すると共に、飼育・管理を間違いなくすることができる。 人と動物のより良い関係づくりのために活動ができる。 動物と人の気持ちを考え、コミュニケーションが取れる 社会で活躍と働くという心構えができている 【授業全体の内容の概要】 インターンシップ（職場実習）として、ペットサロン、ペットショップ、動物病院などの施設構造や機能を理解しすることで、実践的な動物関連の仕事内容と専門知識及び倫理観を習得する。また、インターンシップ先への実習依頼については、学生が行うことでビジネスマナーを身に付ける。 【授業における達成課題】 動物関連業界への就職を実現するだけでなく、業界での活躍を目指す。			
	使用教材	出版社	
学生用	実践ビジネスマナー	ウイネット	
【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 ペットショップで勤務経験がある。			
【評価方法とその内容】 実習評価表（実習先記入）、インターンシップアンケート（実習先記入）、実習日誌・実習日程（学生、実習先記入）、インターンシップレポート・振り返りシート（学生記入）			
【必要な予習等の内容】 翌日の実習内容を担当者に確認をして、必要な内容について教科書等を活用して確認をする。			

科目名		科目時間総数	教員名
インターンシップ実習Ⅱ		180 時間	平元 尚人
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 回	インターンシップ予定先への受入交渉	インターンシップ予定先への受入について、電話で交渉をする。	
2 回	インターンシップの実施の目標設定	インターンシップの目的や取り組みについて理解し上で、実習先や目標を設定する。	
3 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
4 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
5 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
6 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
7 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
8 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
9 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
10 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
11 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
12 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
13 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
14 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
15 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
16 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
17 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
18 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
19 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
20 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
21 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
22 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
23 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
24 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
25 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
26 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
27 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
28 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
29 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	
30 回	インターンシップ（職場実習）	職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。	

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]